日本語学論説資料
第五十二号〔二〇一五年（平成二十七年）分〕

収録論文一覧

第一分冊（国語学一般・国語史・文字・表記）

一　国語学一般

大阪産業大学論集　人文・社会科学編　二三（一五・二）　《いる》―日本語からの哲学・試論―（二）　平尾昌宏　1
大阪産業大学論集　人文・社会科学編　二五（一五・一〇）　《ある》―日本語からの哲学・試論―（三）　平尾昌宏　13
岡山大学大学院教育学研究科研究集録　一五八（一五・二）　保科孝一の国語教育研究における国家主義と「国語」の民主化　浮田真弓　23
語彙研究会　語彙研究　一一（一四・三）　古典語における「言語リソース」の問題について　近藤泰弘　28
清泉女子大学人文科学研究所紀要　三六（一五・三）　「近代（日本）語」をめぐって　今野真二　一
鶴岡八幡宮　悠久　一四三（一五・一）　外国人の日本語研究―辞書・文法書―　倉島節尚／著　木村一／年表　一二
鶴岡八幡宮　悠久　一四五（一五・一）　外国人による日本語文法研究　中山緑朗　一八
東京学芸大学紀要　人文社会科学系　I　六五（一四・一）　真名本『方丈記』にとらえられている日本語の様相―テキストを完成させる力に注目して―　前嶋深雪　二〇
東京学芸大学国語国文学会　学芸国語国文学　四六（一四・三）　書きとめられた日本語と認知と―桂本佚名古辞書のコンテキストから―　前嶋深雪　二五
東京経済大学人文自然科学研究会　人文自然科学論集　一三七（一五・三）　明治維新期「国語」創成への歩み―「漢文」「漢字」をめぐる一断面―　大岡玲　32
日本エドワード・サピア協会研究年報　二八（一四・三）　言語変化の傾向と動向　小柳智一　44
日本言語文化研究会　日本言語文化研究　一九（一五・一）　日本語の哲学〈その二〉　糸井通浩　三二
日本言語文化研究会　日本言語文化研究　二〇（一五・一）　日本語の哲学〈その三〉　糸井通浩　四三
日本のローマ字社　ことばと文字　二（一四・一〇）　戦前期上海に於ける日本語ブームの一考察―第一次上海事変前後を中心に―　酒井順一郎　50
日本のローマ字社　ことばと文字　四（一五・一〇）　公共サインのやさしい表示を考える　岩田一成　55
日本のローマ字社　ことばと文字　四（一五・一〇）　漢字のバリアフリーにむけて　あべやすし　59
日本比較文化学会　比較文化研究　一二（一四・七）　満洲国政府語学検定試験の目的―一九三六年に実施された日本語試験と満洲語試験の比較分析を通して―　祝利　64

明海大学外国語学部論集　二七（一五・二）　田鍋桂子　71
山口大学教育学部研究論叢　人文科学・社会科学　自然科学　六三―一・二（一四・一）　藤本幸伸　78
大槻文彦の標準語観　〈直訳－意訳－注釈〉式英語学習　明治期に廃れた書の可能的工夫　川口敦子　87

二　国語史

愛知県立大学　文字文化財研究所紀要一（一五・三）　天草版『平家物語』の注記記号について―朱引を手がかりとして―　上野和昭　六〇
アクセント史資料研究会　論集　一〇（一五・二）　『補忘記』の貞享版と元禄版について　百瀬みのり　七一
大阪大学国語国文学会　語文　一〇五（一五・一二）　「サテ」の直前文を跳び越す用法について　柴田昭二　八〇
香川大学教育学部研究報告　第一部　一四三（一五・三）　宇治拾遺物語における希望表現について　工藤重矩　八五
鹿児島大学法文学部国語国文学研究室　国語国文　薩摩路　五九（一五・三）　甲南女子大学本源氏物語梅枝巻の本文と解釈―人物呼称をめぐる異文を中心に―　近藤明　九〇
金沢大学人間社会学域学校教育学類紀要　七（一五・三）　近世前期における危惧表現形式　―近松世話浄瑠璃を中心に―　辻浩和　97
川村学園女子大学研究紀要　二六―一（一五・三）　中世絵画史料における歌謡の表現　安田博重　九五
関西学院大学日本文学会　日本文藝研究　六六―二（一五・三）　御堂関白記における音の通用について　小林雄一　一〇七
京都大学文学部国語学国文学研究室　国語国文　八三―六（一四・六）　『名語記』と『色葉字類抄』　岩井宏子　一一七
京都大学文学部国語学国文学研究室　国語国文　八四―三（一五・三）　「たづ」と「つる」考　大秦一浩　一二八
京都大学文学部国語学国文学研究室　国語国文　八四―四（一五・四）　上代における接尾辞ムとブをめぐって　―形容詞語幹に接して動詞を派生する場合―　川口敦子　一三三
京都大学文学部国語学国文学研究室　国語国文　八四―四（一五・四）　キリシタン手稿類のヅ表記とその周辺　小林雄一　一四一
京都大学文学部国語学国文学研究室　国語国文　八四―四（一五・四）　『名語記』と『色葉字類抄』続考　竹田純太郎　一四八
京都大学文学部国語学国文学研究室　国語国文　八四―四（一五・四）　春庭は「あゆひ抄」を書写したのか―「てにをは抄」・「語法手抄」再考―　森下真衣　一六四
京都大学文学部国語学国文学研究室　国語国文　八四―五（一五・五）　京都大学文学研究科蔵『無名字書』解題　Albeker András Zsigmond　108
京都大学文学部国語学国文学研究室　国語国文　八四―五（一五・五）　明治期演説速記の成立過程　―速記字原稿を中心に―　石川幸子　※※※
京都大学文学部国語学国文学研究室　国語国文　八四―六（一五・六）　平曲譜本の変遷における『秦音曲鈔』の位置　近藤政行　一七四
國學院大學　國學院雑誌　一一六―四（一五・四）　「聞く」の推定用法　―今昔物語集を中心に―　高桑恵子　一八一
國學院大學　國學院雑誌　一一六―九（一五・九）　「御覧ず」の関係規定性　―源氏物語における―　金水敏　114
国立国語研究所　国語研プロジェクトレビュー　五―三（一五・二）　日本語の疑問文の歴史素描

島根大学教育学部紀要　四九（一五・二）　百留康晴　121
アスペクト複合動詞「～漏らす」の歴史的検討

中部大学　人文学部研究論集　三一（一四・一）　近藤健二　130
先史アジア語とその残影（七）

中部大学　人文学部研究論集　三二（一四・七）　近藤健二　146
先史アジア語とその残影（八）

鶴岡八幡宮　悠久　一三九（一五・一）　倉島節尚　一八八
古辞書とは

鶴岡八幡宮　悠久　一三九（一五・一）　沖森卓也　一九三
上代の辞書　―『新字』は存在したか―

鶴岡八幡宮　悠久　一三九（一五・一）　金子彰　二〇一
中古の辞書　―類聚名義抄―

鶴岡八幡宮　悠久　一三九（一五・一）　山本真吾　二〇七
中古の辞書　―色葉字類抄―

鶴岡八幡宮　悠久　一三九（一五・一）　中山緑朗　二一二
中世の辞書　―下学集・和玉篇・聚分韻略・塵袋・塵添壒嚢鈔―

鶴岡八幡宮　悠久　一三九（一五・一）　木村一　二一八
近世の辞書　―節用集―

鶴岡八幡宮　悠久　一三九（一五・一）　木村義之　二二四
近世の辞書　―『倭訓栞』『雅言集覧』『俚言集覧』―

鶴岡八幡宮　悠久　一三九（一五・一）　中山緑朗　二三四
名語記　―鎌倉時代の奇書・珍書―

鶴岡八幡宮　悠久　一三九（一五・一）　倉島節尚　二三六
見出し語の配列　―部首順・いろは順・五十音順―

鶴岡八幡宮　悠久　一四三（一五・一一）　陳力衛　二三八
W・H・メドハースト『英和和英語彙』

鶴岡八幡宮　悠久　一四三（一五・一一）　常盤智子　二四五
S・R・ブラウン『会話日本語』

鶴岡八幡宮　悠久　一四三（一五・一一）　木村一　二五〇
J・C・ヘボン『和英語林集成』

鶴岡八幡宮　悠久　一四三（一五・一一）　村山昌俊　二五八
E・M・サトウ、石橋編『英和口語辞典』―もう一つの近代日本語資料―

東海大学日本文学会　湘南文学　四九（一四・一一）　小林行雄　二六三
漢語「光陰」のサ変動詞的用法説への一視点―出典『宗祇畳字百韻』の当該箇所における「原文字列」の推定―

東海大学日本文学会　湘南文学　五〇（一五・三）　志水義夫　二六七
谷川士清『日本書紀通證』小攷―巻一彙言「文字」「倭訓」「譯原」「仮借」四項の言語観の由来―

東京大学言語学論集　三五（一四・九）　三好彰　164
幕末の英和辞書における邦訳の比較考察

東京学芸大学紀要　人文社会科学系　I　六六（一五・一）　高橋久子　二七八
『私用抄』と『温故知新書』―『万葉集』から連歌論書へ、連歌論書から古辞書へ―

東京女子大學日本文學　一一〇（一四・三）　金子彰／冨田千晴編　二九二
世阿弥自筆能本『多度津左衛門』　語彙総索引稿

同志社大学国文学会　同志社国文学　八二（一五・三）　楊瓊　172
上代の接続詞「しからば」の発生について

同志社大学大学院日本語学研究会　同志社日本語研究　一八（一五・三）　石井久雄　179
とはずがたり全用語全事例辞典　起稿

東洋大学通信教育部　東洋通信　五一―三（一四・八）　木村一　185
『和英語林集成』における増補見出し語の性格

富山大学人文学部紀要　五六（一二・二）　小助川貞次　190
漢文訓読史概説の構想

広島大学大学院教育学研究科紀要　第二部（文化教育開発関連領域）　六四（一五・二）　坂水貴司　二〇九
清原宣賢と清原枝賢の字音点の相違について―『論語』『中庸章句』を資料として―

北海道大学国語国文学会　国語国文研究　一四七（一五・一〇）
北海道大学文学研究科紀要　一四二（一四・三）
立命館大学文学部人文学会　立命館文學　六三〇（一三・三）
立命館大学大学院言語教育情報研究科 Studies in Language Science　5（一五・三）

三　文字・表記

アクセント史資料研究会　論集　一〇（一五・二）
科学技術振興機構　情報管理　五八－三（一五・六）
鹿児島大学法文学部国語国文学研究室　国語国文　薩摩路　五九（一五・二）
國學院大學　國學院雜誌　一一四－一一（一三・一一）
國學院大學　國學院雜誌　一一六－二（一五・二）
国立国語研究所論集　六（一三・一一）
国立国語研究所論集　九（一五・七）
国立歴史民俗博物館研究報告　一九四（一五・三）
社会言語科学会　社会言語科学　一八－一（一五・九）
上智大学国文学科紀要　三二（一五・三）
成蹊大学　成蹊国文　四八（一五・三）
専修大学学会　専修人文論集　九六（一五・三）
玉川大学リベラルアーツ学部研究紀要　七（一四・三）
中央大学人文科学研究所　人文研紀要　八〇（一五・一〇）
鶴岡八幡宮　悠久　一四三（一五・一一）
鶴見大学日本文学会　国文鶴見　四九（一五・三）
東京学芸大学紀要　人文社会科学系　Ⅰ　六五（一四・一）
図書寮本『類聚名義抄』における仏典音義類と辞書類の利用　申　雄哲　197
平安時代漢字字書総合データベースの構築　池田証壽　204
『顔氏家訓』と『和名類聚抄』　―『遊仙窟』「師説」注記との比較から―　藏中しのぶ　**三一四**
古典文学研究における計量文献学的手法をめぐって　―『更級日記』『浜松中納言物語』『夜半の寝覚』『紫式部日記』を題材として―　北原慈子　210
『続日本紀』宣命の清濁書き分けと宣命書きの表記意識　澤崎文　**三一八**
字体と字形の狭間で　文字情報基盤整備事業を例として　小林龍生　225
古代日本語の用字考　―「賜」「咲」の文字に関して―　藤井茂利　**三一七**
個人における表記の規則性　―冷泉為秀の表記分析―　家入博徳　**三三一**
現代版「絵文字」とその機能　尾山慎　229
『日本語歴史コーパス』のための書籍活字の電子化　―小学館新全集『今昔物語集』を事例として―　須永哲矢　堤智昭　237
漢字の構造分析に関わる問題　―漢字字体の構造分解とコード化に基づく計量的分析―　ヴォロビヨワ　ガリーナ　ヴォロビヨフ　ヴィクトル　*******
九～一〇世紀の仮名の書体　ひらがなを中心として　小倉慈司　**三四〇**
文字伝達における感情記号の同調　―句読記号には句読記号を、顔文字には顔文字を―　瀧澤純　山坂牧悟　247
上代日本敬語表記の諸相　―「見」「賜」「奉仕」「仕奉」―　瀬間正之　**三四八**
馬琴読本の平仮名字体　―『月氷奇縁』『椿説弓張月』『南総里見八犬伝』を資料に―　市地英　**三六一**
悦目抄とその前後　―字形の誤認識と用字意識の誤類推修正―　斎藤達哉　252
本居宣長母お勝書簡における漢字使用に関する考察　―使用字種の傾向を中心に―　永井悦子　**三七四**
現代日本語の漢字の意味分類　野田時寛　265
ローマ字綴りの変遷　倉島節尚　**三七九**
活字體と筆記體　筒井茂徳　**三八二**
漢語の位相と表記　―「数珠」の場合―　高橋久子　李妍　**三九〇**

東京学芸大学紀要　人文社会科学系　Ⅰ　六六（一五・一）
同志社大学国文学会　同志社国文学　八二（一五・三）
同志社大学人文学会　人文学　一九五（一五・二）
同志社大学文化学会　文化学年報　六四（一五・三）
同志社大学大学院日本語学研究会　同志社日本語研究　一九（一五・九）
徳島文理大学文学部　文学論叢　三一（一四・三）
日本漢字能力検定協会　漢字文化研究　四（一四・三）
日本のローマ字社　Rômazi no Nippon 667（一五・四）
日本のローマ字社　ことばと文字　三（一五・四）
日本のローマ字社　ことばと文字　三（一五・四）
日本のローマ字社　ことばと文字　四（一五・一〇）
日本のローマ字社　ことばと文字　四（一五・一〇）
日本のローマ字社　ことばと文字　四（一五・一〇）
日本のローマ字社　ことばと文字　四（一五・一〇）
日本のローマ字社　ことばと文字　四（一五・一〇）
日本ローマ字会　Roomazi Sekai　863（一五・一五）
文献探究の会　文献探究　五一（一四・三）
法政大学沖縄文化研究所　沖縄文化研究　四一（一五・三）
北海道大学国語国文学会　国語国文研究　一四六（一五・六）
武蔵野学院大学大学院研究紀要　八（一五・三）
盛岡大学日本文学会　日本文学会誌　二六（一四・三）

真名本『方丈記』におけるカタカナのふるまい
―表現形式と叙述とのかかわりについて―　前嶋　深雪　**三九七**
『萬葉集』における多音節助詞の表記　吉岡　真由美　277
『理事功程』における外国地名表記　―新島草稿と比較して―　入江　さやか　**四〇一**
新島襄草稿「理事功程」における外国地名表記　入江　さやか　283
多音節訓仮名表記されることがある語句
―『萬葉集』における実態と傾向―　吉岡　真由美　292
古事記における「赤」の用字法　～霊威の表現としての特徴～　鎭西　三恵　**四一四**
訓字主体表記と略音仮名　尾山　慎　298
ローマ字論の原理　Simizu-Masayuki　305
仮名はすべて同じように発音されるのか　玉岡　賀津雄　311
重力下の縦書きと幻の皇国書式（上）　屋名池　誠　316
日本語点字の表記論　―漢字をつかわない日本語文字としての日本語点字―　なかの　まき　321
「日本語漢字のこれまで、今後」―非関税障壁ないしガラパゴス化としての日本語漢字―　ましこ・ひでのり　324
重力下の縦書きと幻の皇国書式（下）　屋名池　誠　329
占領軍、文部省、国語審議会に「漢字廃止・ローマ字化」の方針は存在したか　―「当用漢字表」・「日本人の読み書き能力調査」を背景に―（上）　茅島　篤　335
表現の壁と表記の壁　岡崎　洋三　341
ローマ字運動一三〇年のあゆみ　年表　日本ローマ字会　345
明治後期における仮名使用について　―韻文資料を中心に―　巣山　優希　**四二五**
『おもろさうし』の助詞ガの表記再考　間宮　厚司　**四三一**
『篆隷万象名義』の本文データベースの構築
―『玉篇』残巻対応部分を中心にして―　李　媛　368
伊勢物語の「うら山しくもかへるなみかな」
―仮名文の中の漢字―　阿久澤　忠　**四四一**
文字論　―書からみた「壬」字の一考察―　林　稔　**四四八**

※※　・・・・著作権者と連絡がとれなかったため紹介にとどめた論文

第二分冊（文法）

文　法

愛知大学語学教育研究室　言語と文化　三〇（一四・一）　一人称代名詞の言語化・非言語化の意味 ―客体的事態解釈と主体的事態解釈―　山本雅子　1

愛知学院大学論叢　教養部紀要　六一―四（一四・三）　補足の接続詞「もっとも、ただし」の意味分析　伊豆原英子　9

愛知教育大学大学院国語研究　二二（一四・三）　「本来の意味・機能」と二段活用の一段化　佐々木淳志　17

愛知県立大学国文学会　説林　六二（一四・三）　「る・らる」の尊敬用法の拡張　吉田永弘　一

愛知県立大学国文学会　説林　六二（一四・三）　『天草版平家物語』における係助詞「こそ」の用法に関する見解 ―安田章氏の論文「コソの拘束力」を中心にして―　近藤政美　25

愛知県立大学国文学会　説林　六三（一五・三）　『捷解新語』における文法的形態について ―文末名詞構文を中心に―　福沢将樹　34

岩手県立大学共通教育センター Liberal arts　9（一五・三）　日本語の使役起動交替に対する形態統語的アプローチ　高橋英也　39

桜美林大学言語教育研究所　桜美林言語教育論叢　一〇（一四・三）　「結果」の文法化 ―接続助詞的用法を中心に―　東條和子　46

大阪大学国語国文学会　語文　一〇五（一五・一二）　指定辞「トイウ」の比喩的な用法について ―コピュラ文との対照からみた―　大田垣仁　51

大阪大学大学院　言語文化研究　四〇（一四・三）　消えるモダリティ ―命題内要素の場合と引用の場合―　渡辺伸治　60

大阪大学大学院文学研究科　待兼山論叢　日本学篇　四八（一四・一二）　名詞型助数詞の構文と傾向　東条佳奈　68

大阪学院大学通信　四五―一二（一五・三）　「気持ちを表すことばの誕生 ―文法化ということ―」語用論　その二　神田靖子　77

大阪市立大学国語国文学研究室文学史研究会　文学史研究　五四（一四・三）　時間に関わるマデニとマエニ　藪崎淳子　七

大阪市立大学国語国文学研究室文学史研究会　文学史研究　五五（一五・三）　所在文の広がり ―存在文との対応―　丹羽哲也　一二

大月短期大学　大月短大論集　四六（一五・三）　ノダ文における既定性とは何か ―「前提的既定性」という観点からの考察―　藤城浩子　86

お茶の水女子大学人文科学研究　一〇（一四・三）　Some Notes on the Reflexive Verb Construction in Japanese　Tohru NOGUCHI　96

香川大学教育学部研究報告　第一部　一四一（一四・九）　十訓抄における希望表現について　柴田昭二　連仲友　二〇

學習院大學國語國文學會誌　五七（一四・三）　連体修飾用法の感情形容詞と被修飾名詞の意味関係 ―うれしい人、うれしい話、うれしい悲鳴―　村上佳恵　103

學習院大學國語國文學會誌　五七（一四・三）　聞き手知識を前提とする「ナニ」の機能について ―ナンダカラ、ナンダッタラ、ナンナラ、ナンダガを例に―　竹内直也　109

関西大学国文学会　国文学　九九（一五・三）　複合格助詞「において」の史的考察　陳韻　116

関西外国語大学研究論集　一〇〇（一四・九）　名詞述語文における形容詞と名詞 ―形容詞による連体修飾のありかたをめぐって―　光信仁美　130

関西外国語大学留学生別科日本語教育論集　二二（一二・一二）
北見工業大学　人間科学研究　一一（一五・三）
岐阜大学教育学部研究報告　人文科学　六四-一（一五・一〇）
岐阜大学国語国文学　四〇（一四・三）
岐阜聖徳学園大学紀要　教育学部編　五三（一四・二）
九州大学大学院　九州大学言語学論集　三四（一四・六）
九州大学大学院　九州大学言語学論集　三五（一五・三）
九州大学大学院　九州大学言語学論集　三五（一五・三）
京都大学文学部国語学国文学研究室　国語国文　八四-四（一五・四）
京都大学文学部国語学国文学研究室　国語国文　八四-四（一五・四）
京都大学文学部国語学国文学研究室　国語国文　八四-五（一五・五）
京都大学文学部国語学国文学研究室　国語国文　八四-八（一五・八）
京都大学文学部国語学国文学研究室　国語国文　八四-一一（一五・一一）
京都外国語大学・京都外国語短期大学研究論叢　八二（一四・一）
京都橘大学研究紀要　四一（一五・一）
京都府立大学国中文学会　和漢語文研究　一三（一五・一一）
共立女子大学国際学部紀要　共立国際研究　三一（一四・三）
熊本大学文学部国語国文学会　国語国文学研究　四九（一四・三）
熊本県立大学大学院文学研究科論集　七（一四・九）
慶應義塾大学言語文化研究所紀要　四五（一四・三）
慶應義塾大学言語文化研究所紀要　四五（一四・三）
慶應義塾大学言語文化研究所紀要　四六（一五・三）
慶應義塾大学言語文化研究所紀要　四六（一五・三）
恵泉女学園大学紀要　二六（一四・二）
恵泉女学園大学紀要　二七（一五・二）

日本語教科書における複文のテンスの扱い　大川英明　140
日本語母語話者と中国人学習者の「てくれる」文容認度の違いについて　―先行する動詞が「てくれる」の習得に及ぼす影響―　末繁美和　148
いきものがかりの言語学三　～文法的逸脱表現　山田敏弘　156
指示詞付帯型名詞修飾節　山田敏弘　161
三代集における主節中の主格の「の」について　小田勝　二五
不定語の解釈と叙述関係　池田則之　167
否定文の言語的意味と発話における制約　片岡喜代子　180
「差し迫った命令」に関する覚え書き　―日本語のテンスとモダリティの接点―　有田節子　188
連体形結びの役割　―カとコソの場合―　蔦清行　三二
存在文の分類をめぐって　丹羽哲也　四六
叙想的テンスの出現条件　福田嘉一郎　196
「が」格の原理　半藤英明　五七
上代における動詞ミルの終止形　岡村弘樹　六五
とりたて助詞「でも」で言い換えられない「だって」　中西久実子　204
「コトカラ」構文に関する考察　佐野裕子　211
程度を表すホドとクライの違い　―名詞性からのアプローチ―　川﨑一喜　217
名詞述語文「AがBだ」の使用率　―意味と構造の面から―　佐藤雄一　224
『蜻蛉日記』地の文の助動詞「たり」「けり」「めり」　―そのテクスト構成機能をめぐって―　坂田一浩　七三
「両極性」表現について　―否定小考―　三木悦三　232
主観的形容詞の二次述語的用法について　杉岡洋子　237
指定ウナギ文と「NP₁のNP₂」について　小屋逸樹　247
Indirect Passives and Relational Nouns (III)　Takashi Iida　253
統語的語形成と語彙主義を矛盾させる原因について　柚原一郎　273
「デサエ」二種の由来　山田昌裕　283
副助詞「ガ」の存在　―「カラガ」「テカラガ」を中心に―　山田昌裕　289

言語処理学会　自然言語処理　二一-二一（一四・四）
甲南大学紀要　文学編　一六四（一四・三）
甲南大学紀要　文学編　一六五（一五・三）
甲南大学国際言語文化センター　言語と文化　一八（一四・三）
甲南大学国際言語文化センター　言語と文化　一九（一五・三）
神戸大学大学院　神戸言語学論叢　九（一四・三）
神戸市外国語大学研究会　神戸外大論叢　六五-二（一五・二）
神戸学院大学　人文学部紀要　三四（一四・三）
神戸松蔭女子学院大学学術研究会 Theoretical and Applied Linguistics at Kobe Shoin (TALKS) 17（一四・三）
國學院大學　國學院雑誌　一一六-六（一五・六）
國學院大學　國學院雑誌　一一六-一二（一五・二）
國學院大學　國學院雑誌　一一六-一二（一五・二）
國學院大學日本語教育研究　五（一四・三）
國學院大學日本語教育研究　五（一四・三）
國學院大學日本語教育研究　五（一四・三）
國學院大學栃木短期大學紀要　四八（一四・三）
国立国語研究所　国語研プロジェクトレビュー　四-三（一四・六）
国立国語研究所　国語研プロジェクトレビュー　五-三（一五・二）
国立国語研究所論集　八（一四・一）
国立国語研究所論集　九（一五・七）
国立国語研究所論集　九（一五・七）
埼玉大学大学院　日本アジア研究　一一（一四・三）
埼玉大学大学院　日本アジア研究　一二（一五・三）

長単位解析器の異なる品詞体系への適用　小澤俊介・内元清貴
現代日本語における「比較」へのアプローチ　八亀裕美　311
テ形複雑述語の多義性をどう捉えるべきか―文法化アプローチと拡大的合成アプローチ―　中谷健太郎　316
体言締め文における主題と文末名詞との関係について　谷守正寛　323
日本語の主語小考　谷守正寛　333
THE LAYERED STRUCTURE OF SYNTACTIC V-V COMPOUNDS IN JAPANESE　Hideki Kishimoto　340
日本語に接続法は存在するか？　福嶌教隆　351
「はずがない」と「わけがない」―異なりの小さい類義表現のコーパス調査による分析―　野田春美　364
E-type 代名詞としての「みんな」　郡司隆男　371
『源氏物語』の動詞「す」の読解　―ヲ格＋ニ格＋「す」構文への注目―　中村幸弘　八二
例示の副助詞「など」によって起用された補助動詞「す」について　中村幸弘　九〇
連体助詞ナの形骸化　蜂矢真弓　一〇〇
近代東京語における「～な」と「お～な」の考察　陳慧玲　377
長沼直兄の受身記述について　岡田誠　383
文法教育としての間接受身　岡田誠　391
日本国憲法に現れる「ある」「する」「なる」の、それぞれの形式動詞性について観察する　中村幸弘　一〇K
生成文法理論に基づく第一言語獲得研究　村杉恵子　395
上代日本語における疑問詞の位置について　エディス・オルドリッジ　400
日本語名詞述語文への意味情報付与　今田水穂　406
日本語疑問文の応答の冒頭に現れる「は」について―係助詞から感動詞へ―　有田節子　419
『虎明本狂言集』における「と思ふ」と「と存ず」―『日本語歴史コーパス』を利用して―　渡辺由貴　430
連体修飾節の形容詞的用法と「結果継続」　蔡梅花　439
連体修飾節の形容詞的用法と心的走査　蔡梅花　448

Assertive in Form and non-Assertive in Meaning　Ken-ichiro Kamachi　458
『蜻蛉日記』の副助詞サヘ ―平安朝和文における〈周縁波及性〉の意義の一確認―　田中敏生　一三〇
『枕草子』の副助詞サヘ ―平安朝和文における〈周縁波及性〉の意義の一確認(其一)―　田中敏生　一三六
『大鏡』の副助詞サヘ ―平安朝和文における〈周縁波及性〉の意義の一確認(其二)―　田中敏生　一四二
文法現象の教育言語学的考察 ―数量詞と格助詞を再考する―　宇都宮裕章　464
若松賤子『小公子』の推量表現について　鶴橋俊宏　一四九
「てもいいか」の意味・用法に関する研究 ―「ギムレット、もう一杯飲んでもいいですか」が依頼と解釈できる場合を中心に―　政井美穂　471
比較・選択を表す「より」の性質　奥村大志　480
「ト(ハ)イッテモ」を含む文の分析　高橋美奈子　488
鴎外の文語文体翻訳内における「係り結び」とそのドイツ語原文との対応 ～係助詞ヤについて～　高橋純　496
有対の自・他動詞の意味制約(下)―受け身、使役、可能、自発との関わり―　中野琴代　501
援助行動に対する話者の認知が授受補助動詞テモラウ・テクレルの使用に与える影響 ―質問紙調査による分析―　内田千穂　吉野由紀子　508
終助詞「や」についての覚書　中﨑崇　514
On the Bi-Negation Construction in Japanese　Naomi Harada　522
現代日本語における形容詞連用形・テ形の機能について　大島資生　527
授受動詞「もらう」の補助動詞的用法の一考察 ―受益未実現時の話者の一想定―　関根和枝　536
起源から見た助詞「が」の本質と変遷　島映子　545
述体構文と分類　石神照雄　一五四
「Vヤシナイ」について ―現代共通語における取り立て否定形式の文法化―　竹内史郎　一六〇
複合辞の「ものか」と「ことか」について　高橋雄一　553
「二」の意味と機能に関する考察　吉永尚　568
機能辞の分類と意味機能 ―文末形式の分類と意味機能を中心に―　田中寛　571
現代日本語の依頼表現における許可求め型の広がり　野呂健一　581

拓殖大学大学院　言語教育研究科研究年報　一四（一四・三）　「を」格「から」格と移動動詞「落ちる」について　孫　逸珊　586
拓殖大学大学院　言語教育研究科研究年報　一五（一五・三）　「～ておく」についての意味分析　―三要素の基盤から―　徐　梓競　591
拓殖大学大学院　言語教育研究科研究年報　一五（一五・三）　日本語感情動詞の受身研究　智　暁敏　595
中京大学文学部紀要　四九―二（一五・三）　形式名詞とは何か　―山田孝雄の『日本文法論』に立ち戻って―　玉　懸元　601
筑波大学日本語日本文学会　日本語と日本文学　五七（一四・一一）　動詞の共起傾向に基づく様態副詞の分類試案　宮城　信　611
筑波大学大学院　筑波応用言語学研究　二一（一四・一二）　単一／複合判断の表出と否定的評価を表すナドの二種　井戸美里　618
筑波大学大学院人文社会科学研究科文芸・言語専攻　文藝言語研究　言語篇　六五（一四・三）　いわゆる伝聞の「そうだ」について　渡邊淳也　625
筑波大学大学院人文社会科学研究科文芸・言語専攻　文藝言語研究　言語篇　六七（一五・三）　日本語の所有者上昇に見られる有生性制限について　石田　尊　636

（第二分冊増刊に続く）

第二分冊増刊（文法）

文　法（承前）

津田塾大学言語文化研究所報　二九（一四・七）　大髙　茜　1

都留文科大学研究紀要　八〇（一四・一〇）　佐藤　佑　4

東海大学日本文学会　湘南文学　五〇（一五・三）　榎戸彩子　一

東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻紀要 Language, Information, Text　21（一四・一一）　栗田　岳　14

東京外国語大学　語学研究所論集　二〇（一五・三）　早津恵美子　21

東京外国語大学日本研究教育年報　一九（一五・三）　張　麗　28

東京学芸大学紀要　総合教育科学系　Ⅱ　六五（一四・二）　岡　智之　38

東京国際大学論叢　人間社会学部編　一九（一四・三）　花田康紀　42

同志社大学国文学会　同志社国文学　八〇（一四・三）　張　子如　47

同志社大学日本語・日本文化研究　一二（一四・三）　米澤昌子　53

同志社大学日本語・日本文化研究　一二（一四・三）　山本和恵　60

同志社大学日本語・日本文化研究　一三（一五・三）　李　長波　70

同志社大学日本語・日本文化研究　一三（一五・三）　松本秀輔　83

東北大学言語学論集　一三（一四・一二）　山本和恵　92

東北大学文学研究科研究年報　六三（一四・三）　Satoshi Imamura　98

東北大学文学研究科研究年報　六四（一五・三）　Einar Andreas Helgason　105

東北大学大学院文学研究科言語科学専攻言語科学論集　一八（一四・一二）　大木一夫　一〇

東北大学大学院文学研究科言語科学専攻言語科学論集　一八（一四・一二）　鯨井綾希　121

東北大学大学院文学研究科言語科学専攻言語科学論集　一九（一五・一二）　黄　孝善　127

CP補文からの繰り上げ

「連文節」と「文節の群化」について　―国語科における文法教育との関わりから―

「わずか」と「たった」の使い分けについて

連体修飾のム　―「思はむ子」をめぐって―

日本語の使役文における使役主体から動作主体への働きかけの表現　―従属節事態と主節の使役事態との関係―

現代日本語における「ラ抜き形」に関する研究　―Webサイトのクチコミデータを用いて―

イメージ日本語文法の可能性　―江副文法の批判的検討を通して―

はだか名詞の研究　その一

小説における「コノ」「ソノ」の代行指示用法　―後続名詞類との関わりを中心に―

行為の非当事者による「てもらう」の用法について　―新聞における用例からの一考察―

夏目漱石の三人称小説テクストにおける発言動詞の受動態の選択　―能動態との比較を通じて―

上代語の「見ユ」とその活用の展開　―活用形と助動詞との接続を中心に―

現代語における「ニシテ」の副詞語尾的用法をめぐって

受身表現における視点人物の転換　―夏目漱石『明暗』を通じて―

A Criterion for choosing between Nominative Case Marker *GA*, Topic Marker *WA*, and Zero Pronouns in Japanese

Sentence-Final Particles in Japanese: Interrelation Meanings of *Ka, Yone, Yo* and *Ne*

現代日本語動詞基本形の時間的意味

連文における名詞句のくり返しの形式分類

近世後期江戸語終助詞「ナ」の意味

限界点の有無からみる動作文と状態文　―程度修飾の副詞との共起を通して―　蔡　薫婕　133

常磐大学コミュニティ振興学部紀要　コミュニティ振興研究　一七（二三・一一）　梅香公　139
常磐大学コミュニティ振興学部紀要　コミュニティ振興研究　一九（二四・九）　梅香公　145
常磐大学コミュニティ振興学部紀要　コミュニティ振興研究　二〇（二五・三）　梅香公　151
徳島文理大学文学部　文学論叢　三二（二五・三）　篠田裕　157
富山大学国語教育　三九（二四・一一）　樋野幸男　165
名古屋言語研究会　Nagoya Linguistics（名古屋言語研究）　八（二四・三）　朱琳　169
名古屋大学言語文化研究会　ことばの科学　二八（二四・一二）　穆玉岡賀津雄欣　176
名古屋大学国語国文学　一〇七（二四・一一）　松野美海　186
名古屋大学国際言語センター　日本語・日本文化論集　二二（二五・三）　加藤恵梨　196
名古屋大学大学院国際言語文化研究科日本言語文化専攻　言葉と文化　一六（二五・三）　疏蒲剣　203
名古屋学院大学論集　言語・文化篇　二六―二（二五・三）　赤楚治之　212
名古屋学院大学論集　人文・自然科学篇　五〇―二（二四・一）　宝島格　220
奈良女子大学日本アジア言語文化学会　叙説　四二（二五・三）　刀祢睦月　二五
鳴門教育大学研究紀要　二九（二四・三）　田中大輝　231
南山大学日本文化学科　論集　一四（二四・三）　Yasuaki ABE　238
南山大学日本文化学科　論集　一五（二五・三）　Yasuaki ABE　245
新潟大学大学院　言語の普遍性と個別性　六（二五・三）　福田一雄　253
日中対照言語学会　日中言語対照研究論集　一七（二五・五）　早津恵美子　262
日本英語学会　English Linguistics 31-1（二四・六）　TOMOYA KOSUGE　273
日本英語学会　English Linguistics 31-1（二四・六）　MEGUMI HASEBE HIDEKI MAKI TOSHIRO UMEZAWA　290
日本言語学会　言語研究　一四八（二五・九）　清水泰行　296
日本言語学会　言語研究　一四八（二五・九）　早津恵美子　306

Vテクル及びVテイク形の複雑述語について
日本語の終助詞「ね」についての一考察
日本語の終助詞「よ」について
終助詞「な」の示す心的操作と時間性
口語形助動詞により形成された準体句について ―『中華若木詩抄』にみる本来的なと擬似的なと―
現代語「ばかり」の用法の多様性について ―名詞（句）＋「ばかり」を中心に―
カラの主語性に関する研究 ―コーパス検索および文処理実験―
感情動詞オソルのヲ／ニ格選択について ―中世和漢混交文を中心に―
「―べく」と「―べし」について ―日本語教育に役立つ例文づくりのための研究―
概略副詞「ほとんど」について
素性継承によるC不可視化と「が・の」交替：Fin-headを巡って
日本語の否定文における違和感の出所について
副詞「まさに」の投写機能について
サエを含む文の産出と理解
A Note on the Negative Gerund in Japanese: *naide* vs. *nakute*
The Locative Phrase and Aspect Interaction in Japanese
日本語モダリティ覚え書き（その二） ―ムードとモダリティの区別―
日本語における使役文と受身文の似通い ―使役文からの考察―
THE SYNTAX OF JAPANESE RECIPROCAL V-V COMPOUNDS: A VIEW FROM SPLIT ANTECEDENTS
WHERE THE NOMINATIVE/GENITIVE ALTERNATION GENUINELY TAKES PLACE IN MODERN JAPANESE
現代語の形容詞語幹型感動文の構造 ―「句的体言」の構造と「小節」の構造との対立を中心として―
日本語の使役文の文法的な意味 ―「つかいだて」と「みちびき」―

日本言語文化研究会　日本言語文化研究　一九（一五・一）
日本言語文化研究会　日本言語文化研究　一九（一五・一）
日本言語文化研究会　日本言語文化研究　二〇（一五・一一）
日本言語文化研究会論集　一一（一五・一〇）
日本語／日本語教育研究会　日本語／日本語教育研究　六（一五・五）
日本語／日本語教育研究会　日本語／日本語教育研究　六（一五・五）
日本語／日本語教育研究会　日本語／日本語教育研究　六（一五・五）
日本語／日本語教育研究会　日本語／日本語教育研究　六（一五・五）
日本獣医生命科学大学研究報告　六四（一五・一二）
日本女子大学国語国文学会　国文目白　五四（一五・二）
日本中部言語学会　Ars Linguistica　21（一五・二）
日本中部言語学会　Ars Linguistica　21（一五・二）
日本比較文化学会　比較文化研究　一一四（一四・一二）
日本文芸研究会　文芸研究―文芸・言語・思想―　一七八（一四・九）
ノートルダム清心女子大学紀要　日本語・日本文学編　三八―一（一四・三）
ノートルダム清心女子大学紀要　外国語・外国文学編　三八―一（一四・三）
ノートルダム清心女子大学紀要　日本語・日本文学編　三九―一（一五・三）
東アジア日本語教育・日本文化研究学会　東アジア日本語教育・日本文化研究　一八（一五・三）
東アジア日本語教育・日本文化研究学会　東アジア日本語教育・日本文化研究　一八（一五・三）
広島大学国語国文学会　国文学攷　二二六（一五・六）
広島大学留学生教育　一八（一四・三）
福岡大学人文論叢　四六―一（一四・六）
福岡大学日本語日本文学　二二（一三・一）

「～に比べて」という言い方について　藤田保幸　三四
小説における「コノ」「ソノ」の指定指示用法―後続名詞類との関わりを中心に―　張子如　322
複合辞「～について」「～につき」をめぐって　藤田保幸　四六
日本語教育に「文節」を活かす　定延利之　331
「*友達に会わなくて、寂しいです」―「Vテ、感情」の産出に向けて　村上佳恵　340
カラトイッテ類が介在する文における推論否定の表現について　高橋美奈子　348
連用修飾関係「大きくV」について―学習者の理解とコーパス　井本亮　356
動作主体をニ格で表示した可能文の使用実態と意味―新聞・知恵袋・書籍の比較を通して　阿部由子　364
日本語の叙述的所有表現の獲得に関する予備的考察　松藤薫子　369
接続詞教育の見直しの必要性―接続詞の用法と学習者の使用頻度、誤用から―　呉囍藝　***
Interpretations of *kare/kanojo* by Turkish Speaking Learners of Japanese　Barış Kahraman　Mineharu Nakayama　374
形式名詞「こと」が導く副詞的時間表現について　小町将之　384
頻度副詞に関する一考察―程度副詞との関連を中心に―　江雯薫　390
補助動詞「～てくる」の多義構造と派生関係　崔柳美　395
クライの諸形式の整理―「暫定抽出」の副助詞、名詞化辞・助動詞―　星野佳之　五七
条件文の時制解釈についての覚え書き　坂口真理　403
クライナラ諸形式の整理―クライ補説―　星野佳之　六四
中古日本語の統語構造に対する漢文訓読の影響―主要部構造変容を中心に―　劉洪岩　408
同類提示の「モ」から周辺的用法への拡張―認知意味論のアプローチ―　孫宇雷　416
副詞「確かに」の使用条件と用法　陳若婷　425
「は／が」と助詞選択の位相―「文内主題」による「語り」と時間性―　中川正弘　434
上代から中世の疑問文の様相―データ解釈を中心に―　衣畑智秀　441
万葉集における副助詞「だに」の意味変化―「すら」との相補的な関係から―　向井克年　461

福岡大学日本語日本文学　一三（一四・一）
福岡大学大学院論集　四七―一（一五・七）
藤女子大学国文学雑誌　九〇（一四・三）
佛教大学国語国文学会　京都語文　二一（一四・一一）
佛教大学国語国文学会　京都語文　二三（一五・一一）
文教大学文学部紀要　二八―二（一五・三）
文教大学大学院言語文化研究科紀要　一（一五・三）
文京学院大学外国語学部　紀要　一四（一五・三）
北陸古典研究会　北陸古典研究　三〇（一五・一一）
北海道大学　文学研究科紀要　一四六（一五・七）
北海道大学国語国文学会　国語国文研究　一四七（一五・一〇）
北海道教育大学紀要　人文科学・社会科学編　六五―一（一四・八）
武蔵野学院大学大学院研究紀要　七（一四・三）
明治大学大学院　文学研究論集　四一（一四・九）
山口大学教育学部研究論叢　人文科学・社会科学　自然科学　六三―一・二（一四・一）
山口大学人文学部国語国文学会　山口国文　三七（一四・三）
山口大学人文学部国語国文学会　山口国文　三八（一五・三）
山口大学人文学部国語国文学会　山口国文　三八（一五・三）
山梨大学教育人間科学部紀要　一六（一五・三）
山梨学院大学大学院　研究年報　社会科学研究　三五（一五・二）
立教大学大学院日本文学論叢　一三（一三・九）
琉球大学法文学部　琉球アジア文化論集　一（一五・三）

文末名詞「形」―新聞記事における「形」の機能―　吉野あずさ　468
意志性からみる否定の返答形式の使用実態　髙司恵梨　478
「お店がやっていない」―現代日本語における助詞ガへの交代現象―　揚妻祐樹　494
記紀風土記のツ・ヌ・リ・タリ・キ・ケリ　田中みどり　七〇
萬葉集のツ・ヌ・リ・テアリ・タリ・キ・ケリ　田中みどり　八三
教科学習の日本語を知る―小学校理科教科書と社会科教科書の条件形を例として―　宮部真由美　503
複文における従属節の構文的職能と形態的機能―様態修飾の「～Vように」節のアスペクト性に関する一考察―　于日平　513
ヲ格非連濁規則を破る力―後部成素が三拍の複合語を中心に―　鈴木豊　524
「モゾ」「モコソ」の表す「危惧」の性質をめぐって（下）　近藤明　一〇八
構文推意の語用論的分析―可能構文を中心に―　加藤重広　532
要求性に基づく未完結文の分類　劉暁苹　＊＊＊
接続詞の二重使用の承接順序及び文体差―『現代日本語書き言葉均衡コーパス』全ジャンルによる追加調査―　馬場俊臣　550
説話における〝時〟を表す助動詞のテンス・アスペクト表現についての考察―特に、『沙石集』における名詞「とき（時）」「ほど（程）」を中心に―　坂詰力治　一一三
述語部否定構造における文法カテゴリーの結合―若松賤子訳『小公子』を資料として―　許哲　559
若年層における感動詞の独立性　VUONG Thi Bich Lien　有元光彦　566
指示詞から感動詞へ―アノ（―）・ソノ（―）について―　岩田一成　575
「少し」と「ちょっと」の比較分析―アンケート調査による使用頻度の差異―　小泉穣子　582
モダリティ副詞についてのアンケート調査―「キット」と「カナラズ」の使い方の差異―　張静　589
The structure of the resultative light verb construction in Japanese　Mikinari MATSUOKA　597
日本語構文の有界性に関する一考察　王艶　601
シク活用形容詞の語構成に関する考察―歴史的変化の観点から―　于艶麗　一一八
オモロ語の動詞終止形―精密なよみをめざして―　かりまたしげひさ　＊

龍谷大学国際センター研究年報 二四（一五・三）	複合辞「～拍子に」について	藤田保幸	611
龍谷大学国際センター研究年報 二四（一五・三）	On the Asymmetric Nature of Polarity in Japanese Modality	KADOOKA Ken-ichi	619
龍谷大學國文學會 國文學論叢 五九（一四・二）	「発話動詞の潜在」ということ	藤田保幸	一二五
龍谷大學國文學會 國文學論叢 六〇（一五・二）	複合辞「～わりに」について	藤田保幸	一四〇
流通経済大学論集 四八-四（一四・三）	日本語教育における引用表現	立川和美	624
流通経済大学論集 四九-一（一四・七）	文章と談話における引用表現 ―随筆と雑談・相談を例として―	立川和美	628
和光大学表現学部紀要 一四（一四・三）	サマ主格変遷構文の意味と類推拡張 ―「のが」型の主要部内在型関係節文と接続助詞的な「のが」文―	天野みどり	637
早稲田大学教育・総合科学学術院 学術研究 人文科学・社会科学編 六二（一四・三）	「無助詞」研究の現状と課題	苅宿紀子	644
早稲田大学大学院教育学研究科紀要 別冊 二一-二（一四・三）	江戸後期における命令形による命令表現の使用 ―「お～なさい」「～なさい」「お＋動詞連用形」を中心に―	山田里奈	652

＊……論説資料のページ数の制約により、掲載できなかった長大な論文

＊＊……著作権者と連絡がとれなかったため紹介にとどめた論文

第三分冊（語彙）

語　彙

宇都宮大学国語教育学会　宇大国語論究　二六（一五・一一）　河原修一　一

心象論の試み

大阪大谷大学　教育研究　四一（一五・一二）　大槻美智子　1

時点詞の語彙的分類

大妻女子大学人間関係学部紀要　人間関係学研究　一六（一五・三）　佐藤富士子　5

介護学生が介護に関する短縮語や造語を学んでいく過程

科学技術振興機構　情報管理　五八－一（一五・四）　JST知識基盤情報部　10

JST科学技術用語シソーラスの改訂

香川大学教育学部研究報告　第一部　一四四（一五・九）　佐々木信行　12

熱力学による諺の研究（その一）　―二兎を追う者と一石二鳥―

香川大学教育学部研究報告　第一部　一四四（一五・九）　佐々木信行　17

熱力学による諺の研究（その二）　―異時性の連結と諺―

学習院大学人文科学論集　二三（一四・一〇）　志賀里美　21

複合動詞「～切る」における文法化の過程についての一試案

学習院大学人文科学論集　二三（一四・一〇）　久保香珠　六

平安時代の「スク」語幹語彙の語義比較小考　―スクム・スクヨカとスクスク（卜）・スクスクシ―

学習院大学大学院日本語日本文学　一一（一五・三）　大谷鉄平　34

ダイエット系「口コミ」にみられる語彙の特性―新聞折り込みチラシの場合との差異に注目して―

関西大学国文学会　国文学　九八（一四・三）　山際彰　45

「最近」と「近日」

関西学院大学日本文学会　日本文藝研究　六六－一（一五・三）　橋本行洋　52

「ぼち」とその周辺語　―〈心付け・祝儀〉を示すことば―

九州大学大学院　九州大学言語学論集　三四（一四・六）　大口恵理　58

アマリの構造と解釈

京都大学文学部国語学国文学研究室　国語国文　八四－一（一五・一）　山本真吾　二三

『今昔物語集』話末評語の漢語の性格について

京都大学文学部国語学国文学研究室　国語国文　八四－五（一五・五）　李安九　82

『日葡辞書』の四字熟語に関する一考察

京都女子大学院文学研究科研究紀要　国文論藻　一四（一五・三）　西崎亨　三二

『歌経標式』所用仮名二題　―比隄利（一人）と比都（人）―

京都西山短期大学　西山学苑研究紀要　一〇（一五・三）　辻周吾　92

「御」（お、ご）を伴う語と元の語の使用率に関する調査　―日本語学習者の「御」を伴う語への疑問から―

杏林大学大学院国際協力研究科論文集　大学院論文集　一一（一四・三）　関口美緒　103

感覚のオノマトペ動詞

桐生大学紀要　二六（一五・一二）　野中博雄　114

カタカナ語における英語品詞と日本語品詞との関連性について　―四〇二語の「する」付加される英語借用語の語彙範疇化―

金城学院大学論集　人文科学編　一一－二（一五・二）　森田順也　121

Postsyntactic Compound　―先行分析とその問題点

群馬大学教育学部紀要　人文・社会科学編　六四（一五・二）　小林英樹　127

漢語サ変動詞の意味・用法の記述的研究　―「接待（する）」、「接遇（する）」などをめぐって―

慶應義塾大学言語文化研究所紀要　四六（一五・三）　関場武　130

随分五辨利　―早引き・便利辞典（その五）

言語処理学会　自然言語処理　二二―二（一五・六）
言語処理学会　自然言語処理　二二―二（一五・六）
甲南女子大学研究紀要　文学・文化編　五一（一五・三）
神戸学院大学　人文学部紀要　三五（一五・三）
國學院大學　國學院雑誌　一一六―三（一五・三）
國學院大學　國學院雑誌　一一六―八（一五・八）
國學院大學栃木短期大學紀要　四八（一四・三）
国立国語研究所論集　九（一五・七）
駒澤大学　駒澤日本文化　九（一五・二）
相模女子大学国文研究会　相模国文　四一（一四・三）
静岡大学人文社会科学部　人文論集　六六―一（一五・七）
実践国文学会　實踐國文學　八八（一五・一〇）
島大国文会　島大国文　三五（一五・三）
島大国文会　島大国文　三五（一五・三）
首都大学東京　人文学報　四九七（一五・八）
首都大学東京　人文学報　五〇三（一五・三）
尚絅学院大学紀要　六九（一五・七）
上智大学総合人間科学部教育学科紀要
上智大学教育学論集　四九（一五・三）
昭和女子大学近代文化研究所　学苑　八九三（一五・三）
白百合女子大学研究紀要　五〇（一五・一）
白百合女子大学研究紀要　五一（一五・一二）
成蹊大学　成蹊国文　四八（一五・三）

医療用語資源の語彙拡張と診療情報抽出への応用　東　上　147
レシピ用語の定義とその自動認識のためのタグ付与コーパスの構築　関　原　山　邦　和　翔　昭　広　平　162
「最悪」考　笹　田　鉄　郎　175
終助詞「もの」の記述と用例のギャップ
―コーパス調査に基づいて―　森　田　信　介　180
形容詞被覆形ムナ〔空〕・露出形ムナシ〔空〕による名詞複合用法の通時的変遷　山　前　洋　子　186
「一見反対語」を考える　～「出る・入る」を例として～　河　原　浩　也　175
近代・現代日本製漢語の漢字音選択についての疑問　藪　崎　淳　子　175
テキストからの対象物認識に有用な記述内容
―動物を例に―　野　田　春　美　180
是心本『節用集』語彙について　〈資料研究の現在〉　蜂　矢　真　弓　三六
『古川ロッパ昭和日記』のオノマトペ「モニモニ（食ふ）」　日　高　貢　一　郎　186
複合語前項の長さの連濁への関与について
―固有名詞、一般語彙、和語、漢語―　石　坂　昌　圀　四三
「こういう」「こういった」の使い分け　萩　原　義　雄　＊
中世語彙資料としての『史記抄』　加　藤　祥　＊＊＊
噺本における程度強調表現『とんだ』について　梅　林　博　人　四九
ヒットソング歌詞の変遷　一九六八年から二〇一三年まで　城　岡　啓　二　192
パラオ語で使われている日本語起源借用語　近　悠　美　208
「ござる」の言語学　田　籠　博　五一
「保育」という語の成立と展開　前　田　桂　子　217
形容詞「高い」の使用実態について　―「強い」「大きい」などとのゆれの可能性の指摘―　左　古　輝　人　228
義経記の擬音語・擬態語　―太平記との比較を中心に―　ダニエル・ロング　Daniel Long　247
『曽我物語』の擬音語・擬態語　―諸本の比較から―　斎　藤　敬　太　Masaharu Tmodrang　247
命名論における表示性と表現性　―米の品種名を題材に―　秋　月　高　太　郎　259
湯　川　嘉　津　美　266
嶺　田　明　美　277
中　里　理　子　284
中　里　理　子　295
森　雄　一　305

専門日本語教育学会　専門日本語教育研究　一七（一五・一二）
大正大学国文学会　国文学踏査　二七（一五・三）
大東文化大学紀要　人文科学　五三（一五・三）
筑波大学日本語日本文学会　日本語と日本文学　五八（一五・三）
鶴岡八幡宮　悠久　一四三（一五・一）
鶴岡八幡宮　悠久　一四三（一五・一）
帝塚山学院大学　こだはら　三七（一五・三）
東海大学日本文学会　湘南文学　四八（一四・三）
東海大学日本文学会　湘南文学　四九（一四・一）
東京女子大學日本文學　一一一（一五・三）
東京都立大学国語国文学会　都大論究　五二（一五・六）
同志社大学国文学会　同志社国文学　八一（一四・一）
同志社大学国文学会　同志社国文学　八一（一四・一）
同志社大学国文学会　同志社国文学　八一（一四・一）
同志社大学日本語・日本文化研究　一三（一五・三）
同志社大学大学院日本語学研究会　同志社日本語研究　一八（一五・三）
同志社大学大学院日本語学研究会　同志社日本語研究　一八（一五・三）
同志社大学大学院日本語学研究会　同志社日本語研究　一九（一五・九）
同志社女子大学日本語日本文学　二六（一四・六）
同志社女子大学日本語日本文学　二六（一四・六）
同志社女子大学大学院文学研究科紀要　一五（一五・三）
東北大学大学院文学研究科言語科学専攻　言語科学論集　一八（一四・一二）
東洋大学文学部紀要　日本文学文化篇　文学論藻　八八（一四・二）
東洋大学大学院紀要　文学研究科　日本文学文化（国文学）専攻　五一（一五・三）
観光学における基本専門用語　―その特徴と指導上の課題―　木暮律子　312
辞書における規範と慣用　第四考　倉島節尚　五九
「VONORE(RA)」を巡って　市井外喜子　315
オノマトペの語形成とレベル順序づけ　那須昭夫　325
『落葉集』　山本真吾　六八
山田美妙『日本大辞書』の外来語　―国語辞書から見た外国語―　木村義之　七三
「厠」小考　―古事記や万葉集に見る「厠」の語源―　神道宗紀　七九
「まもる」から見る後期物語　―「虫めづる姫君」『浜松中納言物語』『狭衣物語』を中心に―　下鳥朝代　八二
三代集と二条家三代集の「詞書」の語彙　若林俊英　九〇
世阿弥自筆能本『阿古屋松』　語彙総索引稿　金子彰　東京女子大学大学院生有志／編　九八
敬語の「お・ご」が付く外来語　―その理由を考える―　日高貢一郎　336
新島襄の書簡に見える「幸福」　―幕末武士階級の漢語―　浅野敏彦　二一四
金石学と鉱物学　―氷は鉱物か―　吉野政治　二一九
『とはずがたり』における「申す」の意味・用法　入江さやか　341
接尾辞「的」に関する一考察　―「男性的（な）」と「女性的（な）」を例に―　原田朋子　348
『とはずがたり』における「かみ（上）」「うへ（上）」の意味・用法　牧野さやか　361
『とはずがたり』における「気色」の意味の定量　丸山健一郎　365
上代の「ゆる」の性格　楊瓊　373
「かささぎの……」の歌の詠歌時間　―「夜ぞ更けにける」の解釈―　小林賢章　二二四
「夜離れ」「かれがれ」の再検討　―道綱母を中心に―　河村裕美　二三〇
明治以降の鉱石名について　吉野政治　二三六
強調を表す複合動詞後項の成立要因について　―「〜こむ」と「〜きる」を対象として―　王秀英　379
指示詞系複合語について　岡崎友子　386
「けっこう」の意味機能の多様性　―漢語「結構」からの変容―　張琳　396

常磐大学コミュニティ振興学部紀要　コミュニティ振興研究　一五（二〇一一）
長沼言語文化研究所　日本語教育研究　六〇（二〇一四・一一）
名古屋言語研究会　Nagoya Linguistics（名古屋言語研究）　八（二〇一四・三）
名古屋大学国際言語センター　日本語・日本文化論集　二二（二〇一五・三）
名古屋学院大学論集　言語・文化篇　二五-二（二〇一四・三）
名古屋学院大学論集　言語・文化篇　二六-二（二〇一五・三）
鳴門教育大学国語教育学会　語文と教育　二九（二〇一五・八）
日中対照言語学会　日中言語対照研究論集　一七（二〇一五・五）
日本家政学会誌　六六-五（二〇一五・五）
日本言語文化研究会論集　一一（二〇一五・一〇）
日本大学国文学会　語文　一五一（二〇一五・三）
日本のローマ字社　ことばと文字　三（二〇一五・四）
日本比較文化学会　比較文化研究　一一四（二〇一四・一二）
日本文芸研究会　文芸研究―文芸・言語・思想―　一七八（二〇一四・九）
梅花女子大学大学院日本文学会　梅花日文論叢　二三（二〇一五・一）
東アジア日本語教育・日本文化研究学会　東アジア日本語教育・日本文化研究　一八（二〇一五・三）
一橋大学国際教育センター紀要　五（二〇一四・七）
姫路獨協大学外国語学部紀要　二八（二〇一五・二）
弘前大学教育学部紀要　一一三（二〇一五・三）
弘前大学教育学部紀要　一一四（二〇一五・一〇）
弘前大学国語国文学　三六（二〇一五・三）
広島大学留学生教育　一九（二〇一五・三）
福井県立大学論集　四四（二〇一五・二）

「たて」構文について　梅香公　407
慣用表現「気にする」と「気になる」の意味分析　王珍妮　413
程度副詞「すごい」の使用実態　中尾比早子　420
動詞「来る」の意味分析　李澤熊　427
〈物事との関与〉を表す表現の意味の成立―「手」、「足」の慣用句―　有薗智美　439
「まで」の使用における話者の想定　宝島今仁生　448
外来語「ピーク」の文型とコロケーション　茂木俊伸　454
シンガポール華語語彙における日本語の外来語　飯塚敏夫　※※※
近現代における「着物」の表記法とその意味の変遷―一八七四年～一九八〇年の新聞記事を中心に―　森理恵　459
ロシア語母語話者の日本語役割語に関する意識調査―アニメ・マンガの役割語に注目して―　宿利由希子他六名　467
キネマ旬報ベスト・テンに見る映画のタイトル分析　小澤真冬　477
日本語教育の新たなツール「基本動詞ハンドブック」―オンライン辞書の一モデルの開発―　今村泰也　485
「気」の日本語文化論(Ⅱ)―メランコリー系の「気」の慣用表現に見る文化論的特徴を中心に―　戸田利彦　489
「接辞性字音語基」の機能と接辞性―三字漢語における「性」の位置づけを通して―　曽睿　495
近代の化粧と美容に関する外来語の移入と定着過程　奥美和子　502
現代日本語の程度副詞の文体をめぐって　趙張建偉　517
講義の談話における「が」「けれども」の用法　石黒圭　524
“Little Lord Fauntleroy”の邦訳にみる外来語の変遷と継続―明治中期から現代まで―　クロス尚美　531
倭訓栞の語彙分類試論　平井吾門　540
自筆本倭訓栞の語種分類について　平井吾門　544
実証データによる「切る」系動詞の使い分け―日本語教育のために―　洪春佐王治伸子　548
「思う／考える」における意味の境界と分節―リアリティーから見る言語―　中川正弘　556
『論理哲学論考』における「語る」と「示す」　塚原典央　563

藤女子大学国文学雑誌　九〇　（一四・三）

佛教大学国語国文学会　京都語文　二二（一四・一）

佛教大学国語国文学会　京都語文　二二（一四・一）

佛教大学国語国文学会　京都語文　二二（一四・一）

文教大学国文学会　文教大学国文　四四（一五・三）

別府大学国語国文学　五五　（一三・一二）

北陸古典研究会　北陸古典研究　三〇（一五・一）

北海道大学　文学研究科紀要　一四五（一五・三）

北海道大学大学院文学研究科研究論集　一四（一四・一二）

北海道教育大学紀要　人文科学・社会科学編　六六―一　（一五・八）

明治大学日本文学　四一　（一五・六）

立教大学大学院日本文学論叢　一三（一三・九）

立教大学大学院日本文学論叢　一三（一三・九）

立命館大學白川靜記念東洋文字文化研究所　漢字學研究　二（一四・七）

宗教書系キリシタン資料における恋愛表現をめぐって―「こひ（―）」「こふ」「こひし」及び「恋（れん）―」の場合―　漆崎正人　一四九

日本人の語彙量（理解語彙、使用語彙）調査を行うにあたっての基礎的研究　荻原廣　570

「縫う」と「編む」の認知意味論的分析　八尾紀子　585

講演　言葉の意味とはいかなる現象か　内田賢徳　一五六

形容詞＋形容詞タイプの複合形容詞について　近藤研至　591

平安時代における「静態動詞」の意味用法の一形式―「似る」と「すぐる」の用例を中心に―　森脇茂秀　一六四

国語で綴る神話　―接続詞「尓」再々論―　瀬間正之　一七二

GOOGLE日本語Nグラムの分析（一）―「イッパヒトカラゲ」の足跡―　小野芳彦　599

江戸時代の文献史料に記載されるツル類の同定―マナヅル・ナベヅルに係る名称の再考察―　久井貴世　606

BCCWJの品詞情報の解析精度について―特に接続詞に注目して―　馬場俊臣　619

助数詞「茎」について　王鼎　一八〇

「勉強」の意味変遷についての考察　―明治大正時代を中心に―　胡新祥　一八七

複合動詞の意味・用法　―後項動詞「～こむ」を中心に―　李静玟　一九一

「漢字」という熟語はいつ作られたのか（續編）　山田崇仁　一九五

陳横大路形建綾明子徹

＊……論説資料のページ数の制約により、掲載できなかった長大な論文

＊＊……著作権者と連絡がとれなかったため紹介にとどめた論文

第四分冊（文章・文体・音声・音韻・方言）

一　文章・文体

桜美林大学　桜美林論考　言語文化研究　六（一五・三）　人称と文体と語りの視点　松田麻利子　1

大阪観光大学紀要　一四（一四・三）　統括機能から見た文末叙述表現「のダ」・「んダ」の異同　宮澤太聡　10

神奈川大学人文学会　人文研究　一八六（一五・九）　平成版「横書ノスヽメ」―水村美苗著『私小説 from left to right』を手がかりに―　深沢徹　一

神戸大学　近代　一一三（一五・一一）　日本語において「間接話法」はいかに規定されるべきか―夏目漱石の『坊っちゃん』を例文に用いて―　湯淺英男　二三

駒澤大學仏教文学研究　一八（一五・一）　『風土記』の文体と漢訳仏典の比較研究―四字語句と句式を中心に―　馬駿　三七

社会言語科学会　社会言語科学　一八―一（一五・九）　日韓の意見文に見られるタイトルと文章構造の特徴―日本語母語話者と韓国語母語話者と韓国人日本語学習者の比較―　伊集院郁子・盧妊鉉　15

上智大学国文学科紀要　三一（一五・三）　二葉亭四迷『浮雲』における主題・主格相当の名詞の「無助詞」表現―節(Clause)を用いた文体分析の試み(六)―　服部隆　四六

中央学院大学人間・自然論叢　三八（一四・七）　連用形名詞の「結果状態解釈」に対する換喩分析　八木健太郎　23

中央学院大学人間・自然論叢　四〇（一五・七）　幸田文「食欲」の表現―〈厭〉の感情に注目して―　水藤新子　34

東洋大学通信教育部　東洋通信　五一―五（一四・一二）　現代語の指示詞コノ・ソノ・アノ＋名詞句について　岡崎友子　41

日本文学協会　日本文学　六三―七（一四・七）　仮名書き願文の表記と文体―『鎌倉遺文』所収願文を中心に―　山本真吾　六一

ノートルダム清心女子大学日本語日本文学会　清心語文　一七（一五・一一）　校歌の歌詞に関する言語学的研究―倉敷市の公立学校の場合―　尾崎喜光・杉尾瞭子　49

一橋大学国際教育センター紀要　五（一四・七）　「必ず」「絶対」「きっと」の文体的特徴『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の調査から　前坊香菜子　58

法と言語学会　法と言語　二（一五・三）　文章の難解さが法律効果に与える影響―運転許否に関わる診断書書式の分析　池邉瑞和・藤佐智子　64

立教大学大学院日本文学論叢　一三（一三・九）　「あそばせことば」の一考察―江戸期・明治期の文学作品を中心に―　高澤信子　六六

早稲田大学国語教育学会　早稲田大学国語教育研究　三四（一四・三）　中等国語読本における言文一致体のはじまりに関する試論―落合直文編『中等国文読本』『中等国語読本』を中心に―　菊野雅之　七六

二　音声・音韻

アクセント史資料研究会　論集　一〇（一五・二）　後期咄本におけるウ音便形について　三原裕子　80

大阪大学言語文化学　二四（一五・三）　日本語の疑問型上昇調と強調型上昇調の音声的特徴について―聴取実験による検討―　郡史郎　92

大阪大学大学院　言語文化研究　四〇（一四・三）
大阪教育大学紀要　第一部門　人文科学　第二部門　社会科学・生活科学　六三―一（一四・九）
大妻女子大学紀要―文系―　四七（一五・三）
お茶の水女子大学日本言語文化学研究会　言語文化と日本語教育　五〇（一五・一）
杏林大学外国語学部紀要　二六（一四・三）
熊本県立大学文学部紀要　二一（一五・二）
群馬県立女子大学大学院　大学院諸究　一〇（一三・三）
慶應義塾大学言語文化研究所紀要　四六（一五・三）
甲南女子大学研究紀要　人間科学編　五一（一五・三）
神戸市外国語大学研究会　神戸外大論叢　六五―一（一五・三）
国立国語研究所論集　九（一五・七）
札幌学院大学総合研究所紀要　二（一五・三）
静岡大学人文社会科学部　人文論集　六五―一（一四・七）
筑波大学附属聴覚特別支援学校紀要　三七（一五・三）
東京学芸大学紀要　人文社会科学系　Ⅰ　六六（一五・一）
東北大学文学会　文化　七九―一・二（一五・九）
豊橋技術科学大学　雲雀野　三六（一四・三）
名古屋大学国際言語センター日本語・日本文化論集　二二（一五・三）
日本音響学会誌　七一―二（一五・二）
日本音響学会誌　七一―九（一五・九）
日本音響学会誌　七一―九（一五・九）
日本音響学会誌　七一―九（一五・九）

物語の朗読におけるイントネーションとポーズ―『ごん狐』の六種の朗読における実態―　郡　史郎
日本語学習者の特殊拍産出に見られる特徴：長音を中心に　若生　正和・李　多慧
日本語イントネーションにおける上昇調の表示　河野　武
高低アクセント指導の導入に向けたワークショップ―初中等教育機関で教えるインド人日本語教師を対象として―　高徳　柳間　智望美
形容詞ウ音便　―使用の位相を中心に―　玉村　禎郎
くまモンを巡るアクセント騒動　崔　文姫
現代日本語における「連濁現象」の一考察―漢字「風」の読みを中心に―　田島　靖介
A catalogue of phonological opacity in Japanese: Version 1.2.　Shigeto Kawahara
乳幼児の歌唱様音声の韻律的特徴　坂井　康子・岡山　志子・林根　洋子・典直　人子
日本語アクセントに関する三つの問題　―音調意識、アクセント規則の有効性、類別語彙―　中井　幸比古
連濁の不規則性とローゼンの法則　テイモシー・J・バンス
短歌音韻則の実証的研究　―万葉集から新続古今集迄の三七八七五首を対象とした解析―　早田　和弥
オ・コ（小）とオー（大）が地名の連濁に与える影響について　―明治期村名とその後の音変化から連濁・非連濁の傾向と規則性を読み取る―　城岡　啓二
発音評価時における児童自身の音声の聴きとり　木村　淳子・内野　智仁
複合名詞のアクセントの変化と語種　白勢　彩子
聴き取り易さが異なる無意味語中長母音の知覚判断の特徴　―日本語中上級レベルの中国語北方方言母語話者を対象として―　栗原　通世
最適性理論による日本語の母音連続の分析と制約の統計的検討　太田　貴久・氏平　明
持続時間と呼気流量による発話文中の語の分析　鹿島　慎吾
発声と声帯振動の基礎　榊原　健一
音声研究における感情の位置付け　森村　大・中村　真毅
音声対話中に出現するパラ言語情報と音響関連量―声質の役割に焦点を当てて―　石井カルロス寿憲
音声に含まれる様々な個人性の自動推定　峯松　信明

99　111　116　123　127　134　149　154　169　173　187　191　196　215　217　220　231　242　251　255　259　263

日本音声学会　音声研究　一九―一（一五・四）
日本音声学会　音声研究　一九―二（一五・八）
広島大学国際センター紀要　五（一五・三）
方言・音声研究会　方言・音声研究　七（一四・五）
美夫君志会　美夫君志　八八（一四・三）
留学生教育学会　留学生教育　二〇（一五・二）

三　方　言

阿波学会紀要　六〇（一五・三）
上田女子短期大学　観光文化研究所所報　一一（一四・三）
上田女子短期大学　総合文化研究所所報　学海　一（一五・三）
追手門学院大学国際教養学部紀要　八（一五・一）
大阪大学大学院　阪大社会言語学研究ノート　一三（一五・三）
大阪大学大学院　阪大社会言語学研究ノート　一三（一五・三）
沖縄国際大学南島文化研究所紀要　南島文化　三七（一五・三）
香川大学教育学部研究報告　第一部　一四一（一四・九）
学習院大学人文科学研究所　人文　一三（一五・三）
学習院大学文学部研究年報　六〇（一四・三）
鹿児島大学法文学部国語国文学研究室　国語国文　薩摩路　五九（一五・三）
金沢大学国語国文　四〇（一五・三）
岐阜大学教育学部研究報告　人文科学　六三―二（一五・三）
九州大学大学院　九州大学言語学論集　三五（一五・三）
日本語音声・テキストコーパス情報処理に基づくオンライン韻律教育インフラの構築　峯松信明
Edge Prominence and Declination in Japanese Jaw Displacement Patterns: A View from the C/D Model　Shigeto KAWAHARA　Donna ERICKSON　Atsuo SUEMITSU
後続音を持たない撥音の音声実現についての予備的研究　石原淳也
中国人日本語学習者のアクセント習得　―単語暗記、規則学習による日本語発音の変化―　劉暁倩
多変量解析を用いた万葉短歌の声調外在化について　川村田右富実　野田秀一
日本留学中の韓国人日本語学習者における日本語漢字単語の聴覚的認知　―韓日二言語間の形態異同性と音韻類似性を操作した実験的検討―　柳本大地
阿南市の方言　岸峪有香子　仙波江信介　光明
長野県方言のモード　大橋敦夫　大橋敦夫
明治五年『方言の記録』（在、白馬村）の検討　大橋敦夫
東日本大震災の被災者と方言　櫛引祐希子
高知県四万十市西土佐奥屋内方言の屈折接尾辞ト　平塚雄亮
京都府福知山市方言におけるテヤ敬語の運用について　福居亜耶
与論島方言のアクセント資料（二）　上野善道
終助詞「よ」「ね」の音調の地域差について　―東京・岡山・香川の比較―　轟木靖子　山下直子
方言区画論と方言境界線と方言圏の比較研究　安部清哉
日本語の「南北型方言分布」研究のための言語地図一覧　安部清哉
鹿児島方言辞典　―遊戯の部―　木部暢子
形式動詞としての「なる」　―山形市での漢語動詞の用例観察から―　須賀一好
愛知県三河地方郡市町村史に見られる方言記述・研究　山田敏弘
天草諸方言のアクセント資料の提示と新しいアプローチに基づいた西南部九州諸方言の系統分析の試み　五十嵐陽介　松浦年男

九州大学大学院　九州大学言語学論集　三五（一五・三）
京都西山短期大学　西山学苑研究紀要　九（一四・三）
熊本県立大学文学部紀要　二〇（一四・二）
群馬県立女子大学国文学研究　三四（一四・三）
國學院大學　國學院雑誌　一一六-九（一五・九）
國學院大學大學院紀要　文学研究科　四五（一四・三）
国立国語研究所　国語研プロジェクトレビュー　五-三（一五・二）
国立国語研究所論集　七（一四・五）
国立国語研究所論集　八（一四・一）
国立国語研究所論集　八（一四・一）
国立国語研究所論集　九（一五・七）
聖霊女子短期大学紀要　四三（一五・三）
専修大学日本語日本文学文化学会　専修国文　九六（一五・一）
筑紫女学園大学・短期大学部　人間文化研究所年報　二六（一五・八）
筑波大学大学院人文社会科学研究科文芸・言語専攻　文藝言語研究　言語篇　六七（一五・三）
東京大学言語学論集　三五（一四・九）
東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻紀要　Language Information Text　22（一五・一一）
東京外国語大学記述言語学論集　思言　一〇（一四・一二）
徳島大学地域科学研究　四（一四・一二）
名古屋学院大学論集　言語・文化篇　二五-二（一四・三）
名古屋学院大学論集　言語・文化篇　二六-二（一五・三）
西日本言語学会　ニダバ（NIDABA）　四三（一四・三）
日本大学国文学会　語文　一五二（一五・六）

On the Syntactic Structure of *Bai* and *Tai* in Hichiku Dialect　Yasuhito Kido　424
「サ詠嘆法」の文法的特質　―一語文の実例を中心に―　濱中　誠　436
往来物に見る方言反映事例について　―近世後期の東北地方における―　米谷　隆史　九三
伊藤信吉方言資料にみる〈桑の実〉の方言分布　―多様な方言資料を横断的に利用した方言研究のために―　新井　小枝子　444
格助詞の後ろに付くウチナーヤマトゥグチ「ガ」の用法　―石垣市方言を具体例に―　座安　浩史　450
ウチナーヤマトゥグチの助詞「ガ」の用法について　座安　浩史　460
敬語の成人後採用　―岡崎敬語調査の「川の字」変化―　井上　史雄　473
喜界島方言のアクセント資料（三）　上野　善道　478
徳之島浅間方言のアクセント資料（一）　上野　善道　489
「首都圏の言語」をめぐる概念と用語に関して　鑓水　兼貴　507
関西若年層の新しい否定形式「～ヤン」をめぐって　鳥谷　善史　520
秋田県男鹿方言の動詞活用形とアクセント・Ⅰ類動詞編　近藤　清兄　530
方言イメージの形成　永瀬　治郎　538
佐賀方言における用言の「語幹化」　髙山　百合子　547
アクセントの世代差と対立の中和　―長野県千曲市での臨地調査から―　那須　昭夫　552
日本諸語および諸方言記述のためのグロスリスト作成の試み　大槻　知世　567
共通語の生涯習得に関する研究の動向　横山　詔一　569
南琉球八重山黒島方言の動詞における〝連体形〟と〝終止形〟　原田　走一郎　574
徳島県吉野川流域における『声の言語地図』作成の試み　峪口　有香子　Abdunabi Ubul　大泉　誠治　陳　英　581
山形県寒河江市方言におけるオノマトペの強調法　川越　めぐみ　586
山形県寒河江市方言オノマトペにおける具体的描写性と語形バリエーション　川越　めぐみ　592
方言に対応した形態素解析辞書の拡張　―『広島大学電話会話コーパス』構築に際して―　廣川　純子　597
ミュージカル『ライオンキング』の「方言キャラ」―トリックスター「ティモン」と「プンバァ」―　田中　ゆかり　602

日本大学国文学会　語文　一五二（一五・六）
日本比較文化学会　比較文化研究　一一六（一五・四）
ノートルダム清心女子大学紀要　日本語・日本文学編　三九―一（一五・三）
法政大学沖縄文化研究所　琉球の方言　三八（一四・三）
法政大学沖縄文化研究所　琉球の方言　三八（一四・三）
法政大学沖縄文化研究所　琉球の方言　三九（一五・三）
法政大学沖縄文化研究所　琉球の方言　三九（一五・三）
北星学園大学　北星論集　五一―一（一四・九）
北星学園大学　北星論集　五一―二（一五・三）
武蔵野書院　武蔵野文学　六三（一五・一二）
武蔵野書院　武蔵野文学　六三（一五・一二）
武蔵野書院　武蔵野文学　六三（一五・一二）
武蔵野書院　武蔵野文学　六三（一五・一二）
武蔵野書院　武蔵野文学　六三（一五・一二）
桃山学院大学総合研究所　人間文化研究　一（一四・一一）
山形県立米沢女子短期大学紀要　五〇（一四・一二）
山口大学教育学部研究論叢　人文科学・社会科学　自然科学　六四―一・二（一五・一）
琉球大学法文学部　琉球アジア文化論集　一（一五・三）

長野県の昔話に現れた方言　―語り始めと語り終わり―　大谷早希　※※※
京ことばの考証をめぐって　―映画『舞妓はレディ』の場合―　泉文明　609
全国多人数調査から見るガ行鼻音の現状と動態　尾崎喜光　617
今帰仁方言アクセントの音声分析　永野マドセン泰子　626
沖永良部島国頭方言の人称代名詞　徳永晶子　635
琉球方言「焼べる」考　ウェイン・ローレンス　644
琉球与那国方言体言のアクセント資料(四)　上野善道　649
札幌市方言アクセントの共通語化に関する実時間パネル調査　～老年層話者の「生涯変化」に着目して～　高野照司　664
札幌市方言名詞アクセントの共通語化に関する実時間パネル調査　～変化を支配する拘束要因マップの提案～　高野照司　673
オモロ語・表現の再活性化　照屋理　一〇一
琉球語で書く、琉球語を書く　下地賀代子　一〇四
琉球方言圏散策　野原三義　一〇七
沖縄語動詞の形態変化の移り変り　―「みる」にみる―　多和田眞一郎　一一〇
大阪・奈良の方言における否定辞について　―世代差を中心に―　村中淑子　685
方言資料としての『かてもの』と『飯粮集』　山本淳　698
天草諸島方言の多様性　―御所浦島方言・獅子島方言の動詞テ形音韻現象―　有元光彦　707
多良間島漂着事件に見る言語接触の一端　高良倉吉　715

※※※……著作権者と連絡がとれなかったため紹介にとどめた論文

第五分冊（コミュニケーション）

コミュニケーション

桜花学園大学　Journal of the School of Liberal Arts　6　（二〇一四）

大分大学国際教育研究センター年報（二四・九）

大阪大学言語文化学　二三　（二四・三）

大阪大学国際教育交流センター研究論集　多文化社会と留学生交流　一九（二五・三）

大阪府立大学　言語文化学研究　言語情報編　九（二四・三）

大阪府立大学　言語文化学研究　言語情報編　九（二四・三）

お茶の水女子大学日本言語文化学研究会　言語文化と日本語教育　四八・四九（二五・六）

お茶の水女子大学　比較日本学教育研究センター研究年報　一〇（二四・三）

尾道市立大学芸術文化学部　紀要　一三（二四・三）

学習院大学大学院日本語日本文学　一〇（二四・三）

神奈川大学　人文学研究所報　五三（二五・三）

関西外国語大学大学院研究論集　FONS LINGUAE　39　（二五・一〇）

関西学院大学言語教育研究センター　言語と文化　一八（二五・三）

関西学院大学日本文学会　日本文藝研究　六五・二（二四・三）

関西学院大学日本文学会　日本文藝研究　六七・一（二五・一〇）

神田外語大学言語教育研究所　言語教育研究　二五（二四・一一）

北九州市立大学　基盤教育センター紀要　一六（二三・三）

九州大学大学院　言語文化論究　三二（二四・三）

京都産業大学論集　人文科学系列　四七（二四・三）

接触場面における感動的あいづちについて　都恩珍　1

社会的役割とムード選択　『CanCam』二〇一四年四月を例にとって　敖道胡　8

夫婦間会話における自己フェイス補償ストラテジー　―（イン）ポライトネスの観点から―　南里敬三　13

日本語教育に活用可能な言語景観の分類に関する考察　大塚生子　20

日本語の雑談会話における話題転換研究の方法　―話題転換はどこで行われ、どう分類されるか―　磯野英治　24

日本語母語話者の「申し出」表現の選択要因　―行動の援助を提供する場面における緊急度―　花村博司　39

中国人日本語学習者の助言場面における意識と行動に影響する諸要因　デウィ・クスリニ　50

試食会における食べ物と家族との関係　黄郁蕾　56

文作成時の文脈パターンの個人差に関する検討　―身体感覚表現と言語的不安反応との関係に着目して―　玉岡賀津雄　60

朝日新聞における皇族の呼称および待遇表現の変遷　―甯子内親王・眞子内親王を例に―　ポリー・ザトラウスキー　63

日本語Twitterユーザーの中国人についての言説の計量的分析　―コリアンについての言説との比較―　塚本真紀　71

Observations of Gender Specific Usage of Japanese in the Media　松本敦　78

感謝表現としての「ありがとう」と「すみません」の境界線　―シンボリック相互作用理論を適用して―　高史明　89

漫才における言語生活論　尾鼻靖子　96

名詞による呼掛について　―喚体論の視点から―　清原裕登　109

'Stop the ひったくり': English language use on a Tokyo police sign　六城雅章　115

日本語教科書における女性の職業：教科書分析と日本語教師の意識調査分析　Jessica Tynes　128

Address Terms in Japanese Blogs as a Response to the Author's Self-Presentation　Luke Rowland　133

「風評被害」のプロトタイプ意味論　水本光美　一

Bartosz WOLAŃSKI　荒井文雄
Yoshiko MATSUMURA

近畿大学教養・外国語教育センター紀要　外国語編　五―一（一四・七）　大塚生子　150
恋人たちのポライトネス　ほめ意図の推論とイン／ポライトネスの評価　甲斐千代子　167
コミュニケーションにおける意図について―Griceの非自然的意味（non-natural meaning）に基づく考察―　中島信夫　161
テレビニュースにおける方言と字幕スーパーについての一考察―送り手の伝達方法は視聴者にとって適しているか―　辻加代子　171
岡崎市方言敬語伝統形式および新形式ミエルの消長―継続サンプルの分析より―　金澤裕之　183
「大学生活を充実に過ごすために…」―新用法発生の契機に関する一考察―　風間伸次郎　187
日本語（話しことば）は従属部標示型の言語なのか？―映画のシナリオの分析による検証―　高山橋下由紀純恵　202
島根県における幼児の言語調査：益田市から出雲市までの一〇地点の調査報告　細城馬宏綾通実　208
語りの進行を回復する実践として共―語り手たちが産出する同期現象　山下里香　217
モスク教室における在日パキスタン人児童のコードスイッチング　張承姫　226
相互行為としてのほめとほめの応答―聞き手の焦点ずらしの応答に注目して―　西横増戸城平本　234
第三〇回研究大会ワークショップ　会話分析のスペクトラム―その広がりと可能性―　阪森田江本　大将哲綾　仰輔伸理実毅　234
社会言語科学会　社会言語科学　一七―二（一五・三）　原田幸一　238
首都圏若年層の日常会話における「違う」の使用―新形式「ちが・ちゃ」に注目して―　宇佐美まゆみ　246
社会言語科学会　社会言語科学　一八―一（一五・九）
日本語の「スタイル」にかかわる研究の概観と展望―日本語会話におけるスピーチレベルシフトに関する研究を中心に―　田所希佳子　255
社会言語科学会　社会言語科学　一八―一（一五・九）
スピーチレベルの選択に伴う場面認識に関する考察―韓国人留学経験者へのインタビューから―　勝田順子　260
社会言語科学会　社会言語科学　一八―一（一五・九）
マレーシア人留学生と友人日本人大学生の接触場面における「規範」の違い―「あいづち」の「規範」からの逸脱―　花村博司　267
社会言語科学会　社会言語科学　一八―一（一五・九）
日本語の会話における話題転換表現―新出型・再開型・前提提示型という話題転換の型による使い分け―　井上史雄　277
社会言語科学会　社会言語科学　一八―一（一五・九）
「お父さん」の記憶時間―グロットグラムによる地域差と年齢差―　李讃珍　294
社会言語科学会　社会言語科学　一八―一（一五・九）
The 'Multiform' Linguistic, Sociolinguistic and Sociocultural Practices of Plurilingual Employees in European Multinationals in Japan　Lisa FAIRBROTHER　287
首都大学東京言語研究会　言語の研究　一（一五・七）
謙譲表現「させていただく」の拡大的な用法について―日本人母語話者の意識調査から―　ダニエル・ロング　302
首都大学東京　人文学報　四八八（一四・三）
非母語話者からみた日本語の看板の語用論的問題―日本語教育における「言語景観」の応用―
甲南大学紀要　文学編　一六五（一五・三）
甲南女子大学研究紀要　文学・文化編　五〇（一四・三）
国立国語研究所論集　七（一四・五）
国立国語研究所論集　八（一四・一一）
国立国語研究所論集　九（一五・七）
島根県立大学短期大学部　しまね地域共生センター紀要　二（一五・九）
社会言語科学会　社会言語科学　一六―二（一四・三）
社会言語科学会　社会言語科学　一七―一（一四・九）
社会言語科学会　社会言語科学　一七―一（一四・九）
社会言語科学会　社会言語科学　一七―一（一四・九）

首都大学東京　人文学報　五〇三（一五・三）　ダニエル・ロング　313
日本語が公用語として定められている世界唯一の憲法　―パラオ共和国アンガウル州憲法―

尚絅学院大学紀要　六九（一五・七）　今村圭介　322
何のために語り直すのか？：転換的語り直しの目的に関する言語分析

情報処理学会　デジタルプラクティス　五―一（一四・一）　池田和浩　329
情報伝達型の日本語文章に現れるあいまい表現の類型化とその改善例

信州大学　人文科学論集　一（一四・三）　阿部圭一　334
敬語接頭辞「オー／ゴー（御）」の使い分け原理試論　―ポライトネス理論の観点から―

全国大学国語教育学会　国語科教育　七五（一四・三）　山田健三　344
談話実践としての書くことにおける「状況性」と「分散性」

待遇コミュニケーション学会　待遇コミュニケーション研究　一二（一五・二）　奥瀬真紀　348
キャラクター設定における非敬体の様相と効果

拓殖大学人文科学研究所　人文・自然・人間科学研究　三三（一五・三）　小林一貴　356
日本人学生と外国人留学生の自由会話の微視的分析　―相互行為に見られる非対称性を中心に―

中部大学　人文学部研究論集　三四（一五・七）　佐藤恵理　364
「感じのよさ」と補助動詞　―日本語母語話者と非母語話者の調査結果を比較して―

筑波大学地域研究　三五（一四・三）　小野寺美智子　373
Learning to Sound Male in a Female World?: First Language Socialization to Use the ‘Masculine’ Japanese First-Person Reference Forms ‘Ore’ and ‘Boku’

筑波大学地域研究　三六（一五・三）　山本裕子　381
Lost in Translation?: On Using Conversation Analysis to Examine Cross-Linguistic Data

東海大学日本文学会　湘南文学　五〇（一五・三）　Cade BUSHNELL　391
現代若者の敬語に関する意識調査

東海学園大学研究紀要　一九　人文科学研究編（一四・三）　宮崎麻央　398
A cross-cultural pragmatic investigation: discussion using the film *The Last Samurai*

東京外国語大学多言語・多文化教育研究センター　多言語多文化　実践と研究　六（一四・一二）　徳井厚子　407
複言語サポーターはどのように複数の言語を使用しているのか　―語りからみえてくるもの―

東京外国語大学大学院　言語・地域文化研究　二一（一五・一）　松田知香　418
日本語補習校におけるバイリンガリズム　―イギリス、サザンポート日本語補習校を事例に―

東京学芸大学紀要　総合教育科学系二　六六（一五・二）　藤加野浩博　422
TRPGサークルに参加するASD大学生の語りの分析　―余暇活動を通したコミュニケーション支援の観点から―

東京学芸大学国語国文学会　学芸国語国文学　四七（一五・三）　呉丹　426
中国人日本語学習者の動詞否定丁寧形「ません」と「ないです」の使用実態について　―インタビューの発話データに基づいて―

東北大学文学会　文化　七七―三・四（一四・三）　梅木俊輔　435
聞き手の発話解釈に感動詞が関与する程度差について　―暗示的意味を中心に―

東北大学文学会　文化　七八―三・四（一五・三）　名嶋義直　447
特定秘密保護法に関する記者会見記事の批判的談話分析　―ミクロ面の分析を中心に―

東北大学文学会　文化　七九―一・二（一五・九）　名嶋義直　458
無料配布の観光案内小冊子に見る関西電力の談話実践　―批判的談話分析の観点から―

東北大学大学院　教育ネットワークセンター年報　一五（一五・三）　川南住隆一　464
重度・重複障害児のコミュニケーション行動の形成に関する研究　―言語的働きかけに対する応答行動の発現経過―

東洋大学通信教育部　東洋通信　五二―二（一五・六）　野崎島開和　三宅和子
イギリスにおける日本人の国際結婚女性の言語生活　―その社会的背景と子育て世代の日本語の保持・継承―

Vテイク形の複雑述語とポライトネスについて　梅香　公　470
なぜ日本語ではネガティブ・ポライトネスが優勢なのか？ ―ポライトネスの比較文化試論―　篠田　裕　476
「話し言葉」を用いた原稿作成によるスピーチ教育の有効性 ～「ん」系変化に注目して～　宮本　淳子　481
日本人ビジネス関係者のクレーム電話会話終結部の分析 ―ロールプレイによる会話を対象に―　服部　明子　488
宜蘭クレオールにおけるsound substitutionについて　真田　信治　497
顔見知りの相手に対する話題の切り出しについて ―性別の違いと相手との関係性の違いに注目して―　髙井　春田　505
配慮をめぐる日本語研究の現在 ―敬語、ポライトネス、配慮言語行動―　中大　輝菜　515
注意概念を用いたソ系の直示用法と非直示用法の統一的分析　三宅　和子　526
相互作用に見られる言語と文化の接点 ―ストラテジー、談話の構成単位、モダリティとエビデンシャリティについて―　平田　未季　539
幼稚園生活における幼児の丁寧体習得に関わる要因 ―保育者への質問紙調査から―　ザトラウスキー、ポリー　548
Gender in Japanese Language Textbooks: Modern Society and Teachers' Awareness　Terumi Mizumoto　554
現実のコミュニケーションにおける「～ないでください」とは ―日本語教師と一般社会人の言語感覚はどこまでずれているのか　田所　希佳子　559
漫才のネタ分類と類型化の試み ―構成要素を用いたクラスター分析から―　建石　始　567
「やさしい日本語」研究の「これまで」と「これから」　廣瀬　義人　576
言い換え調査に基づくオノマトペ表現の選択志向性 ―看護介護場面での例文調査を題材に―　庵　功雄　581
文化スキーマにかかわる話題の出現過程 ―多文化クラスにおける会話の質的分析―　西村　由美　589
日本語インターネット・カタログのマルチジャンル的表現構成 ―説得心理学の視点から見たバーバル・ノンバーバル効果―　竹内　和広　596
戦争体験者の文学作品における中日言語接触　藤　美帆　604
四歳児の「許可を求める発話」に見られる規範意識 ―判断基準としての他者参照―　落合　由治　610
「～てもらっていい？」の普及に関する研究　張　守祥　616
漫画における男女の文末表現 ―少女向けコミック誌と少年向けコミック誌の比較―　辻谷　真知子　628
議論の場における「他者発言容認の前置き表現」使用の縦断的変化 ―中国人日本語学習者の場合―　尾崎　喜光　635

一橋大学国際教育センター紀要　六（一五・七）　庵　功雄　643
「やさしい日本語」研究が日本語母語話者にとって持つ意義　―「やさしい日本語」は外国人のためだけのものではない―

一橋大学国際教育センター紀要　六（一五・七）　石黒　圭　650
大学講義の文末表現の機能　―引用助詞「と」で終わる文を例に―

姫路獨協大学大学院　日本語教育論集　二四（一五・三）　苗田　敏美　657
意見文に見られる話しことばの一考察　―教材開発への可能性―

弘前大学教育学部紀要　一一三（一五・三）　松崎　敏治　661
自閉スペクトラム症の方言不使用についての解釈　―言語習得から方言と共通語の使い分けまで―

広島大学国語国文学会　国文学攷　二四（一四・一二）　菊地原本　秀樹　667
ナラティブにおける対人関係の複層性と連続性　―方言調査の録音データを用いて―

広島大学大学院教育学研究科紀要　第二部（文化教育開発関連領域）　六四（一五・一二）　脇　忠幸　676
児童による文末スタイルの使い分け　―指標性の観点から―

広島大学大学院　論叢　国語教育学　一一（一五・七）　吉岡　瑞希　681
国会会議録に見る前置き表現の変化

福岡大学研究部論集　A：人文科学編　一四―二（一五・一）　永田　涉　686
韓国高年層の残存日本語談話資料

文教大学文学部紀要　二八―二（一五・三）　森　勇太　690
誤解や外的要因に基づく言われのない非難に対する言語行動　―日本人社会人・日本人学生・留学生の比較から―

文教大学大学院言語文化研究科付属言語文化研究所紀要　言語と文化　二六（一四・三）　金　昴京　699
日本語母語話者のナラティブ構造に関する一考察

法政大学国文学会　日本文学誌要　八七（一三・三）　末田　美香子　699
ますます丁寧化する日本語　―デス・マスを中心に―

母語・継承語・バイリンガル教育（MHB）研究会　母語・継承語・バイリンガル教育（MHB）研究　一〇（一四・三）　鈴木　一徳　699
バイリンガル環境にある幼児の文字概念認知と受容語彙の発達調査

北海道大学大学院文学研究科研究論集　一四（一四・一二）　浅野　明代　699
広告表現の解釈プロセスに関する語用論的考察

北海道教育大学紀要　人文科学・社会科学編　六六―一（一五・八）　平川　眞規子　699
共話を含む言いさし発話の連鎖　―日中母語話者を比較して―

明海大学外国語学部論集　二七（一五・三）　尾谷　昌則　一八
Self-Construals and Deceptive Motives in Japanese Interpersonal Communication

明海大学外国語学部論集　二七（一五・三）　乗次　章子　714
教室談話に見られるポライトネス　―日英教室談話の比較―

明海大学大学院応用言語学研究科紀要　応用言語学研究　一六（一四・三）　山下　早代子　751
「会話の間接性尺度」における性別間の等価性の検証　―平均構造・多母集団同時分析を用いて―

明海大学大学院応用言語学研究科紀要　応用言語学研究　一七（一五・三）　原　和也　758
文字言語を媒介した方法知の伝達を可能とする条件的要素に関する研究：伝達事例における私秘的還元の開示に焦点化して

琉球大学教育学部紀要　八七（一五・九）　小嶋　季輝　765
話しことばにおける情報操作　―ジョークを中心に―

龍谷大学　龍谷紀要　三五―二（一四・三）　堀田　知子　770
現在を生きる台湾日本語世代の日本語によることばの活動の意味

早稲田大学日本語教育研究センター言語文化教育研究会　言語文化教育研究　一一（一三・三）　佐藤　貴仁　778
Nominalisation in Subject Honorification　OGA Kyoko　730
Kazuya Hara　Min-Sun Kim　744

第五分冊増刊（言語学・対照研究）

一　言語学

大阪大学大学院　言語文化研究　四〇（一四・三）　説得のデザイン　―戯曲の場合―　沖田知子　1

お茶の水女子大学日本言語文化学研究会　言語文化と日本語教育　五〇（一五・一二）　日本語の未知漢字語彙の意味推測に見る中国語を母語とする学習者の推測手がかりの利用　―漢字語彙の日中対応関係及びL2習熟度の観点から―　崔嫣　12

学習院大学国語国文学会誌　五八（一五・三）　東アジア諸語における〈数〉に関する発想と表現　―名詞の単数と複数をめぐって―　禹昊穎　17

京都産業大学論集　人文科学系列　四七（一四・三）　明かりをつけることを多くの言語で「明かりを開く」と言うのはなぜか　平塚徹　27

杏林大学外国語学部紀要　二七（一五・三）　医療通訳者の主体的な判断について　―機能主義翻訳理論の観点から―　張（宮首）弘子　41

言語処理学会　自然言語処理　二二―四（一五・一一）　Left-corner Parsing for Dependency Grammar　Hiroshi Noji　Yusuke Miyao　58

言語と交流研究会　言語と交流　一八（一五・七）　格表示は名詞と動詞の間でなされる　―構造伝達文法の視点から―　今泉喜一　77

県立広島大学人間文化学部紀要　一〇（一五・一）　Etymology and Lexicalization in Cognitive Grammar　CHUNG, Wootaek　85

神戸松蔭女子学院大学　Theoretical and Applied Linguistics at Kobe Shoin (TALKS)　18（一五・三）　日本語のコピュラ文の形式意味論的分析　郡司隆男　89

社会言語科学会　社会言語科学　一七―二（一五・三）　日本語系クレオール語の形成プロセス　真田信治　95

首都大学東京　人文学報　四八七（一四・三）　*Wh*-Compounds: A Preliminary Study　Naomi Harada　100

首都大学東京　人文学報　五〇二（一五・三）　非侵襲脳刺激法を用いた言語の脳科学研究の現在　橋本龍一郎　107

第二言語習得研究会　第二言語としての日本語の習得研究　一八（一五・一二）　中国語を母語とする日本語学習者における未知漢字語彙の意味推測　崔嫣　114

拓殖大学言語文化研究所　語学研究　一三三（一五・一二）　文化的反義語の試案　―第四のカテゴリーとして―　山田政通　123

筑紫女学園大学・筑紫女学園大学短期大学部紀要　一〇（一五・一）　呼称のカテゴリー分析　―自称詞・対称詞・他称詞―　緒方隆文　135

中央大学大学院論究　四七―一　文学研究科篇（一五・三）　構成的完結性の演算の再考　木村崇是　142

東京学芸大学紀要　総合教育科学系　Ⅱ　六五（一四・二）　ハワイにおける日本語語彙の共通語化　島田めぐみ　本高橋正久　151

獨協大学　マテンス・ウニウェルサリス　一五―二（一四・三）　外国語学習者から翻訳者へ　永田小絵　157

名古屋言語研究会　Nagoya Linguistics（名古屋言語研究）　九（一五・三）　日本語の定性標示「観念的照応」に存在する「裸名詞」と「あの＋NP」の定性の性質の違いをめぐって　モスタファ　ヤスミーン　＊＊＊

名古屋大学言語文化研究会　ことばの科学　二九（一五・一二）　概念メタファーの動機付けに関する一考察　韓涛　167

名古屋大学大学院　言語文化論集　三六-二（一五・二）
南山大学日本文化学科　論集　一五（一五・三）
新潟大学　人文科学研究　一三五（一四・一〇）
日本音声言語医学会　音声言語医学　五六-四（一五・一〇）
日本言語学会　言語研究　一四八（一五・九）
日本心理学会　心理学研究　八五-三（一四・八）
日本比較文化学会　比較文化研究　一一八（一五・一〇）
ノートルダム清心女子大学紀要　外国語・外国文学編　三九-一（一五・三）
福岡大学人文論叢　四六-三（一四・一二）
文教大学国文学会　文教大学国文　四四（一五・三）
北海道文教大学論集　一六（一五・三）
北海道立アイヌ民族文化研究センター研究紀要　二〇（一四・三）

二　対照研究

愛知学泉大学現代マネジメント学部紀要　三-二（一五・三）
愛知学泉大学現代マネジメント学部紀要　四-一（一五・一二）
愛知県立大学外国語学部紀要　言語・文学編　四六（一四・三）
桜美林大学言語教育研究所　桜美林言語教育論叢　一一（一五・三）
大阪府立大学　言語文化学研究　言語情報編　一〇（一五・三）
お茶の水女子大学　人文科学研究　一〇（一四・三）
金沢大学人間社会学域　学校教育学類紀要　六（一四・一）
九州大学大学院　言語文化論究　三四（一五・三）
九州大学大学院　言語文化論究　三五（一五・一）
文法が生成する文の数が無限だという主張について　外池俊幸　＊＊＊
日本語非母語話者の日本人の名前の性別判断能力について　六川雅彦　172
統語的派生再論　江畑冬生　179
失語症者における言語流暢性課題の成績―品詞の影響と時間推移の分析―　李中現・伊澤多幸　189
Japanese Dialects and General Linguistics　HARUO KUBOZONO　193
説明予期が文章理解に及ぼす影響―実験とメタ分析による検討―　深谷達史　209
使用言語による思考・表現方法の変容に関する一考察　東本裕子　214
肯定極性項目の意味論的分析とその問題点　坂口真理　223
言語における対象指示の構造　古賀恵介　229
「談話」という学術用語への不満　城生佰太郎　242
状態変化動詞の事象投射構造　小西正人　246
アイヌ語白糠方言におけるtekの用法　田村雅史　260
日中対照研究方法論（一）―〝給・N＋V〟表現と「N・格助詞」を用いた日本語動詞表現（上）―　成戸浩嗣　276
日中対照研究方法論（二）―〝給・N＋V〟表現と「N・格助詞」を用いた日本語動詞表現（下）―　成戸浩嗣　281
Successive-cyclic *wh*-movement in Sinhalese and Japanese　Hisashi MORITA　286
日本手話話者と中国語話者の日本語リテラシー―表記と文法に着目して―　佐々木倫子・岡典栄　295
言語の類型的特徴をとらえるための対照研究について　張麟声　302
話題の切り出しから「誘い」の意志決定に至るまでの一連の言語行動―中国語母語話者と日本語母語話者の比較―　黄明淑　313
日英語複文構造の対照言語学的研究：英語学習者の誤用の観点から　守屋哲治　321
「state類事態の時間構造」再考―英語“know”、日本語「知る」、スペイン語“saber”の対照研究―（上）　山村ひろみ　327
「state類事態の時間構造」再考―英語“know”、日本語「知る」、スペイン語“saber”の対照研究―（下）　山村ひろみ　334

九州大学大学院　言語文化論究　三五（一五・一二）
京都大学言語学研究　三三（一四・一二）
京都外国語大学日本語学科研究会　無差二〇（一三・三）
京都外国語大学・京都外国語短期大学 Cosmica 44（一五・一）
京都外国語大学・京都外国語短期大学研究論叢　八四（一五・一）
京都外国語大学・京都外国語短期大学研究論叢　八四（一五・一）
京都産業大学論集　人文科学系列　四八（一五・三）
言語処理学会　自然言語処理　二一-三（一四・八）
言語と交流研究会　言語と交流　一八（一五・七）
高知大学留学生教育　八（一四・三）
高知大学留学生教育　九（一五・一二）
神戸市外国語大学研究会　神戸外大論叢　六四-五（一四・三）
神戸女子大学英文学会　Tabard　29（一四・三）
国立国語研究所　国語研プロジェクトレビュー　六-二（冊子版六）（一五・一〇）
相模女子大学紀要　七八（一五・三）
島根大学外国語教育センター　外国語教育センタージャーナル　一〇（一五・三）
就実大学・就実短期大学　就実論叢　四三（一四・二）
昭和女子大学大学院日本文学紀要　二六（一五・三）
第二言語習得研究会　第二言語としての日本語の習得研究　一七（一四・一二）
拓殖大学言語文化研究所　語学研究　一三一（一四・一二）

日本語の「丁寧さ」とロシア語の「ウェジリボシチ」―類似点と相違点―　ウェインベルグ　ナジェージダ
ベトナム語指示詞について　―日本語・韓国語の指示詞との対照を基に―　松村　瑞子
「誘い」への応答に関する日中対照研究　―「食事に誘う」場面を中心に―　NGUYEN THI HA THUY
比喩表現について（一六）　―フランスと日本の故事・諺・成句に見られる食器の語彙による比喩表現を中心として―　王　暁
ロマン諸語における語の有縁性と比喩表現について（五）　―ロマン諸語（フランス語、イタリア語、ルーマニア語、スペイン語、ポルトガル語）と日本語の故事・諺・成句にみられる楽器名による比喩表現を中心として―　小倉　博史
オノマトペの伝達上の価値　第Ⅱ部（1）　―物語テクストにおける日独語対照―　小倉　博史
日本語のヨ・ネとスペイン語表現　乙政　潤
Unlabeled Dependency Parsing Based Pre-reordering for Chinese-to-Japanese SMT　三好　準之助
Dan Han　Pascual Martínez-Gómez　Yusuke Miyao　Katsuhito Sudoh　Masaaki Nagata
日本語の「ている」と中国語の動態助詞との対応関係　―アスペクト的意味考察を中心に―　孫　偉
日本語と中国語の数字に見られる虚数修辞機能に関する一考察　林　翠芳
日本語に見られる省略現象とその文化背景に関する一考察　―中国語と関連して―　林　翠芳
スペイン語の間投詞ehと日本語の終助詞「よ」　野村　明衣
『ねじまき鳥クロニクル』における引用部と伝達部の日英対照研究　濱側　桃
日本語と諸言語の対照研究から見えてくるもの　―プロジェクトの理論的・応用的な研究成果―　プラシャント・パルデシ　今村　泰也
Floating quantifiers in Japanese and Korean　ITO Tatsuya
話題転換時における談話標識の使用に関する日中比較　田中　奈緒美
日本語と英語の統語的対照と関連する事柄について（一）　森安　秀之
日本語教育の立場から見た日本語と呉語の比較研究　―ガ行鼻濁音を中心に　黄　建香
日本語の「伝える」「投げる」、韓国語の“jeon-ha-da”“deon-ji-da”のプロトタイプの比較　―母語話者の考える意味のプロトタイプの比較―　金　祉諱
『水滸伝』の日本語訳の比較研究　趙　昕

中央大学人文科学研究所　人文研紀要　七九（一四・九）
東海大学日本文学会　湘南文学　四九（一四・一一）
東京大学言語学論集　三六（一五・九）
東京外国語大学大学院　言語・地域文化研究　二一（一五・一）
東京都立大学国語国文学会　都大論究　五二（一五・六）
名古屋言語研究会　Nagoya Linguistics（名古屋言語研究）八（一四・三）
名古屋大学言語文化研究会　ことばの科学　二九（一五・一二）
名古屋大学言語文化研究会　ことばの科学　二九（一五・一二）
名古屋大学国際言語センター　日本語・日本文化論集　一二（一五・三）
西日本言語学会　ニダバ（NIDABA）四三（一四・三）
日中対照言語学会　日中言語対照研究論集　一六（一四・五）
日中対照言語学会　日中言語対照研究論集　一六（一四・五）
日中対照言語学会　日中言語対照研究論集　一六（一四・五）
日中対照言語学会　日中言語対照研究論集　一六（一四・五）
日中対照言語学会　日中言語対照研究論集　一七（一五・五）
日中対照言語学会　日中言語対照研究論集　一七（一五・五）
日本学生支援機構　日本語教育センター紀要　一一（一五・七）
日本言語文化研究会　日本言語文化研究　一九（一五・一）
日本言語文化研究会　日本言語文化研究　二〇（一五・一一）
日本語学研究と資料の会　日本語学研究と資料　三七（一四・四）
日本中部言語学会　Ars Linguistica　20（一三・一一）
日本比較文化学会　比較文化研究　一一一（一四・四）
日本比較文化学会　比較文化研究　一一一（一四・四）

司法通訳と通訳言語の選択に関する一考察 ―漢語方言に関する判例等を素材として― 小田　格　513
謝罪表現における日中間の相違についての一考察 張　婭那　540
「人の場所化」に関する日中対照研究 ―「起点」「所有者」「動作主」― 鄭　若曦　550
ウズベク語の愛称形成について ―日本語との対照的観点から― ハルナザロフ　マムルジョン　560
程度表現の対照研究 ―勧誘のモダリティ表現― 時　衛国　570
クメール語と日本語における派生語の構造 コン・ソティア　578
日韓中同形二字漢字語の品詞性ウェブ検索エンジン 于　劭贇　585
同等比較を表す中国語の〝相当〟と日本語の「相当する」について ―〈一方向の比較〉と〈双方向の比較〉の観点から― 疏　蒲　剣　595
日本語学習者の文章構造の対照修辞学的検討 ―日本人大学生とウズベク人大学生との比較から― 近藤　行人　603
日本語・イタリア語対照研究 ―「古―／旧―」vs.「antico／vecchio」― 古浦　敏生　617
日本語受身文の中国語訳について 高橋　弥守彦　622
日本語の「シテイル」と中国語の〝V得(…)〟 王　学群　633
日本語訳からみた〝没＋V＋什么(N)〟構文 賈　黎黎　645
中国語の〝以〟類の目的表現と日本語のヨウニの対応・非対応関係 戦　慶勝　656
程度表現の対照研究 ―命令・依頼のモダリティ表現― 時　衛国　667
中国語の〝会〟可能文と日本語のニ標示可能文について 大江　元貴　677
動作動詞の日中対照研究 「もつ」と「拿」 水落　いづみ　686
副詞〝居然(jūrán)〟と〝竟然(jìngrán)〟の日本語訳について〈その一〉 張　偉莉　689
副詞〝居然(jūrán)〟と〝竟然(jìngrán)〟の日本語訳について〈その二〉 張　偉莉　699
極限の取り立ての中日対照研究 ―〝都〟と「さえ」「まで」「も」「でも」を中心に― 李　占軍　709
談話モデルにおける情報の転送原則に関する考察 ―日本語と中国語の場合― 劉　驫　718
フランス語訳『伊豆の踊子』における《擬音》表現を伴った場面状況の困難さ ―フランス語話者は如何に理解し得るのか― 鈴井　宣行　728
日本語母語話者とスリランカ人シンハラ語母語話者の感謝表現ストラテジーの傾向 S・M・D・T・ランブクピティヤ　734

依頼場面における断りに至るまでの言語行動 ―日本人女子学生とインドネシア人女子学生の比較― 吉田好美 741
日中両言語における数字を含む熟語の対照研究 ―数字「一」を含む熟語を中心に― 李叶 747
日・中・英働きかける文の対照研究 趙鄭咏彦灝志 756
認知言語学による日中恩恵表現の対照研究 ―「てもらう」表現と対応中国語表現の捉え方を中心に― 佟利功 767
日中同形語の共起の異同に関する研究 ―二字漢語名詞と二字漢語サ変他動詞の共起を中心に― 王燦娟 774
日本語の「ありがとう」と中国語の「謝謝」の使用の際に見られる違い 李村玉由香里秋 785
聾学校での手話を活用した「よい授業」に関する日中比較研究：研究授業を通した分析 鳥越隆士 小林暁星 賀森井由結美季 790
「とても」が韓国語で程度副詞に翻訳されないとき 深見兼孝 797
日本語二字漢字単語における韓国語漢字との形態・音韻類似性調査 松島弘枝 802
日英多義語の認知意味論的分析 ―「イエ」と“house”― 皆島博 806
日英多義語の認知意味論的分析 ―「マダ」と“still”― 皆島博 814
日本の唱歌・童謡の英訳比較考（一） ―特に語彙を中心に― 大塚孝一 821
日本語・韓国語・中国語・英語の無主格文について ―川端康成『伊豆の踊子』『雪国』の原文と翻訳文を検討材料として― 穆欣 827

日本比較文化学会　比較文化研究　一二一（一四・七）
東アジア日本語教育・日本文化研究学会　東アジア日本語教育・日本文化研究　一八（一五・三）
東アジア日本語教育・日本文化研究学会　東アジア日本語教育・日本文化研究　一八（一五・三）
東アジア日本語教育・日本文化研究学会　東アジア日本語教育・日本文化研究　一八（一五・三）
東アジア日本語教育・日本文化研究学会　東アジア日本語教育・日本文化研究　一八（一五・三）
姫路獨協大学大学院　日本語教育論集　二四（一五・三）
兵庫教育大学研究紀要　四五（一四・九）
広島大学国際センター紀要　五（一五・三）
広島大学日本語教育研究　二五（一四・三）
福井大学教育地域科学部紀要　四（一四・一）
福井大学教育地域科学部紀要　五（一五・一）
明海大学大学院応用言語学研究科紀要　応用言語学研究　一六（一四・三）
山口大学人文学部国語国文学会　山口国文　三七（一四・三）

※※※……著作権者と連絡がとれなかったため紹介にとどめた論文

日本語学論説資料　第52号

収録論文一覧

2017年 9月30日発行

協力　大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
国立国語研究所

発行　論説資料保存会
代表者　常盤浩行

〒173-0036
東京都板橋区向原3-10-2 ㈱北辰内

日本語学論説資料　第52号　発行日
第1分冊　2017年 9月30日
第2分冊　2017年 9月30日
第3分冊　2017年 9月30日
第4分冊　2017年 9月30日
第5分冊　2017年 9月30日